

パート 6

科学技術・イノベーションと社会

(裏白紙)

Q601. (意見の変更理由)研究コミュニティ(学会等)は、科学技術・イノベーションについての国民の理解を促進する活動に、十分に取り組んでいると思いますか。

前回	2023	差	
1	1	6	5 十分である。研究のプロの集団なのだから、無駄にアマチュアに勘違いさせるようなことはあってはならない。これで十分。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
2	2	4	2 アウトリーチ活動などが増えている(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
3	3	5	2 マスコミ等での取り上げ幅と多様な番組での照会などが進んできている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
4	2	3	1 学会等で市民公開講座等を行っているのが目立つようになったように感じる。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
5	5	6	1 関連分野の学会で市民公開講座,ホームページを通じての発信などを行っている。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
6	4	5	1 大会開催時あるいはオンラインで,定期的に公開シンポジウムを開催している。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,女性)
7	2	3	1 国民の理解までは感じておりませんが,研究者間の情報共有や,研究者間の連携強化に学会役員が尽力していただけるようになりました。助教・講師の立場の者にとって,学会の准教授・教授が力を貸して下さることは,大変ありがたく,お世話になりました。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
8	4	5	1 webを利用した公開講座やHPの充実などが該当する。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
9	4	5	1 自分を含めて,むしろアウトリーチに時間を割きすぎではないかと感じることもある。(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,男性)
10	3	4	1 学会としての取り組みは全く不十分だが,有志の研究者コミュニティによる取り組みは増えている。もはや学会主体である必要はないように思う。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
11	2	3	1 国民への様々な成果発信が徐々に増加しているように感じる。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
12	3	4	1 ○大の光化学コミュニティがクラウドファンディングでアウトリーチを始めた。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
13	1	2	1 継続的な様々な活動により,徐々に改善されてきている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
14	1	2	1 学術分野の特性も関係すると思われる。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
15	1	2	1 ○○○○新聞等では,アカデミアの活動を記事にしているケースもある。また大学の広報活動で社外発表しているケースもあると思います。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
16	2	3	1 大学により,取り組み度合いが異なると感じている。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,准教授、主任研究員クラス,女性)
17	2	3	1 改善されていると思う。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
18	4	4	0 アウトリーチ活動などは行われている。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
19	6	6	0 アウトリーチ活動が行われており,自身も積極的に参画している(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
20	2	2	0 そのような活動を評価に繋がられていない雰囲気を感じる。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
21	1	1	0 研究コミュニティの成果は製品や事業等の形で社会に還元されているが,研究分野としての重要性や価値については十分な理解増進活動ができていないと言えない。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
22	2	2	0 国民の理解の促進という意味では十分には機能していない。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
23	3	3	0 研究者の自己満足の世界になっているように思われます。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,助教、研究員クラス,男性)
24	2	2	0 国民に理解を求める促進活動がどのようなものであるかが浸透していないように思う。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
25	5	4	-1 現在の社会の状況を考えると年々科学技術への国民の理解を促進することの重要性は増しており,新たな活動も進めていくべきと感じているが,重要性の増大に対して,そのような活動の増加は追いついていない印象があるため。(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,准教授、主任研究員クラス,女性)
26	3	2	-1 活動は実施しているものの,十分ではないかもしれない。一般の方は研究と社会の結びつきを理解していないことが多い。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
27	5	4	-1 本年に関して言えば,知る限りにおいて十分とまでは言えない。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
28	5	4	-1 特に若い人材が不足している感があり,先細りになる懸念がある(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,准教授、主任研究員クラス,女性)
29	5	4	-1 取り組んでも国民の理解を促進する活動,ということになると5→4かなと思い直しました(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
30	4	3	-1 研究・教育と社会実装の間に乖離を感じている。というよりも,研究者が相違した活動をするのは困難な側面もあると感じている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,助教、研究員クラス,男性)
31	5	4	-1 やはりdry techniqueに関する日本全体の乗り遅れ感が否めない(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,男性)
32	4	3	-1 コロナが明けてきた割には,どの学会も大したことはしていない。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)

33	6	5	-1	取り組んでいるものの、実を結んでいるかどうかは謎(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
34	2	1	-1	経済的な効果のわかり易いものだけが注目され、予算化もされている。もっと基礎部門での投資が必要。(国研等マネジメント層、学長等クラス、男性)
35	3	2	-1	大学教員側唯我独尊の傾向は継続。産学の会合などで『先生』と民間側が頭を下げるのはすでに日本だけでは？学会は何かの変化をさせようとしているが、クローズドコミュニティの典型では？(大企業の代表等、学長等クラス、男性)
36	3	2	-1	会員となっている学会では、取組を十分に行っているとは思えない。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
37	3	2	-1	内向きになっている(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
38	4	3	-1	やっちはいるが、効果について検証されてないように見受けられ、形だけのものに見えてきたから。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、男性)
39	2	1	-1	取り組まれていないわけではないが、科学技術・イノベーションについての国民の理解は十分とは言えない。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、女性)
40	6	4	-2	不十分だと感じてきています。変えていきたいと思います。(大学現場研究者・自然科学、第3G、農学、教授、部局長等クラス、男性)
41	4	2	-2	コロナ禍での諸問題を含め、学術的な問題につき研究者コミュニティ全体が社会に向けて発信する取り組みは弱い。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
42	4	2	-2	学会間の差が大きくなっているように思われる。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、男性)
43	6	2	-4	プラスチックに対する認識が、環境活動家の運動に扇動され、間違った方向に進んでいる。例えば、プラスチックによる商品の軽量化が、輸送エネルギーの削減に繋がり、結果的に地球温暖化の抑制に一役買っていることは、十分に認識されていない。私が所属する地域には科学館が少ないが、唯一ある科学館(自宅から50 km以上離れている)では、プラスチック排斥が訴えられている一方で、ムーンショット型研究開発事業やCRESTなどでの、最先端の取組は紹介されていない。(大学現場研究者・自然科学、第3G、工学、准教授、主任研究員クラス、男性)

Q602. (意見の変更理由)研究コミュニティ(学会等)は、地方公共団体、NPO/NGO、市民等の多様な主体と共創し研究活動を行うことに、十分に取り組んでいると思いますか。

前回	2023	差		
1	3	6	3	市民にまで気を配る必要は皆無、共産主義的発想で不愉快、プロはプロの集まりでやっていけばよい、耳当たりがよいだけで、実際は何の意味もない無駄な行政指導が多すぎる。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
2	1	3	2	市民公開講座があることを最近知った。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,男性)
3	2	4	2	学会などの単位で、Youtubeを活用した研究成果公開の取り組みや市民講座での講演は活性化しているのを体感している。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
4	2	4	2	小規模な研究会などでは地方公共団体との連携が強い。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
5	2	3	1	学会等で市民公開講座等を行っているのが目立つようになったように感じる。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
6	4	5	1	財団、工業会がこれにあたります。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
7	2	3	1	十分取り組むことで時間が奪われている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
8	3	4	1	研究者の実力や、どのような概念構築をされているかで、活動の展開の仕方は異なると思っています。チームを作り、共創していく上司の下で学んだ研究者は、上の立場になったときに同じような活動を展開されます。少しずつ改善に向かっていく雰囲気を感じていました。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
9	3	4	1	学会としての取り組みは全く不十分だが、有志の研究者コミュニティによる取り組みは増えている。もはや学会主体である必要はないように思う。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
10	2	3	1	一部私立大学、地方国立大学でその取り組みが進んできた(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
11	2	3	1	徐々に共創することに取り組んでいこうとする意気込みを感じる。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
12	2	3	1	改善されつつあると思う。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
13	3	3	0	共創して研究活動を行っているかどうかは分からない。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
14	5	5	0	6-01と相反する回答で恐縮だが、ここでは所属する「○○学部」「○○学会」としての活動から判断している。地元の小学校を招聘し、蚕糸産業について授業を行うとともに、我が子を含む小学生に実際に蚕を飼育して貰うなど、所属部局の地域市民への貢献は特筆に値する。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
15	2	2	0	液晶学会は市民講座を大事にしている。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
16	2	2	0	地域側の要望は多いが、研究予算などは非常に少なく、研究者が競争的資金を激しく争っている。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
17	2	2	0	活動の中身が不透明(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
18	2	2	0	社会連携講座を学会の大会の一部で導入されているケースはあります。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
19	2	2	0	十分な取組みとは思えません。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,助教、研究員クラス,男性)
20	1	1	0	減ることはあっても増えることはない(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
21	3	2	-1	対話は不十分(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
22	3	2	-1	研究者と行政、更にNPO/NGOは更なる連携が必要なところ、壁は改善されていない。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
23	3	2	-1	学会の閉鎖性が歴史のある団体ほど、進んできているように感じる。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)

Q603. 研究者は、自らの研究と社会的課題(少子高齢化、気候変動、感染症等)との関係性や、自らの研究の社会的意義・価値を十分に考慮しつつ、研究に取り組んでいると思いますか。

集計グループ	2023年度調査											各年の指数					指数の変化								
	分らない	6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準差	第4四分点	中央値	第4四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年		
		1	2	3	4	5	6																		
		1	2	3	4	5	6																		
大学の自然科学研究者	2.9	4.1	10.3	19.6	29.3	25.4	8.3	32,764	5.8	0.12	4.2	5.8	5.9	5.8	-	-	-	0.1	-0.1	-	-	-	-	0.0	
国研等の自然科学研究者	2.5	1.9	9.4	21.4	25.5	30.6	8.7	6,393	6.0	0.26	4.4	6.0	6.2	6.0	-	-	-	0.0	-0.2	-	-	-	-	-0.2	
重点プログラム研究者	7.3	4.6	12.0	23.9	26.6	17.4	8.1	800	5.4	0.14	3.8	5.4	5.1	5.4	-	-	-	-0.3	0.3	-	-	-	-	0.0	
人文・社会科学系研究者	2.0	9.8	12.8	9.2	28.2	24.9	13.2	2,145	5.7	0.41	3.7	6.0	6.1	5.7	-	-	-	0.3	-0.4	-	-	-	-	-0.1	
大学マネジメント層	1.2	0.0	10.7	35.0	45.3	7.8	0.0	243	5.0	0.00	4.0	5.1	5.0	5.0	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	
国研等マネジメント層	0.0	8.6	6.9	27.6	39.7	15.5	1.7	58	5.0	0.00	3.9	5.3	4.9	5.1	5.0	-	-	0.2	-0.1	-	-	-	-	0.1	
企業全体	11.1	9.5	21.7	33.1	15.4	9.1	0.1	4,098	3.9	0.19	2.6	4.0	4.2	3.9	-	-	-	0.0	-0.3	-	-	-	-	-0.3	
大企業	7.0	1.4	16.9	33.1	27.5	13.4	0.7	831	4.8	0.16	3.6	4.8	4.1	4.9	4.8	-	-	0.0	-0.1	-	-	-	-	-0.1	
中小企業・大学発ベンチャー	12.2	11.5	22.9	33.0	12.3	8.0	0.0	3,267	3.6	0.24	2.4	3.8	4.9	4.0	3.6	-	-	0.0	-0.4	-	-	-	-	-0.4	
俯瞰的な視点を持つ者	4.2	6.3	21.8	29.6	27.5	10.6	0.0	934	4.3	0.17	3.0	4.4	4.4	4.2	4.3	-	-	-0.2	0.1	-	-	-	-	-0.1	
大学グループ	6.5	6.3	9.3	16.6	28.8	23.3	9.3	6,244	5.7	0.25	4.1	5.8	5.7	5.7	5.7	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	
第1グループ	1.7	3.2	11.4	20.2	30.9	25.2	7.4	8,926	5.7	0.20	4.2	5.8	7.2	5.7	5.7	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	
第2グループ	2.5	2.4	13.3	18.2	28.4	29.2	6.0	8,130	5.8	0.23	4.1	5.9	7.3	5.9	6.0	5.8	-	0.1	-0.2	-	-	-	-	-0.1	
第3グループ	2.0	5.0	7.3	22.4	29.1	23.6	10.6	9,463	5.9	0.26	4.2	5.8	7.4	6.0	6.1	5.9	-	0.1	-0.2	-	-	-	-	-0.1	
第4グループ	6.8	2.9	19.2	14.5	26.9	23.8	5.9	5,050	5.4	0.26	3.5	5.6	7.1	5.3	5.3	5.4	-	0.0	0.1	-	-	-	-	0.1	
大学部局分野	3.3	3.3	8.0	19.8	29.9	26.6	9.0	14,627	6.0	0.15	4.4	6.0	7.4	5.9	6.0	6.0	-	0.1	0.0	-	-	-	-	0.1	
工学・農学	0.9	5.5	9.3	21.4	29.7	24.6	8.6	13,086	5.7	0.22	4.1	5.7	7.2	5.9	6.0	5.7	-	0.1	-0.3	-	-	-	-	-0.2	
保健	0.6	5.3	9.4	15.0	28.8	34.1	6.9	2,691	6.0	0.34	4.5	6.2	7.5	5.9	5.8	6.0	-	-0.1	0.2	-	-	-	-	0.1	
臨床	3.1	4.0	10.3	20.1	29.4	24.6	8.5	30,073	5.8	0.12	4.2	5.8	7.3	5.9	6.0	5.8	-	0.1	-0.2	-	-	-	-	-0.1	
臨床以外	1.4	3.3	12.0	18.5	35.0	22.6	7.2	12,627	5.7	0.17	4.2	5.7	7.0	5.9	5.8	5.7	-	-0.1	-0.1	-	-	-	-	-0.2	
教授	4.2	4.5	10.7	21.3	23.7	28.5	7.1	14,013	5.7	0.20	4.0	5.8	7.3	5.7	6.0	5.7	-	0.3	-0.3	-	-	-	-	0.0	
准教授	3.0	4.8	5.6	18.2	30.7	24.0	13.7	6,124	6.2	0.30	4.6	6.1	7.6	6.0	5.9	6.2	-	-0.1	0.3	-	-	-	-	0.2	
助教	2.6	4.8	10.8	19.4	29.4	25.3	7.6	27,649	5.7	0.14	4.1	5.8	7.2	5.7	5.8	5.7	-	0.1	-0.1	-	-	-	-	0.0	
性別	4.3	0.7	7.4	20.8	28.9	25.7	12.2	5,115	6.3	0.15	4.6	6.1	7.6	6.3	6.4	6.3	-	0.1	-0.1	-	-	-	-	0.0	
女性	2.0	4.5	10.0	20.1	35.3	19.9	8.1	7,672	5.6	0.23	4.2	5.7	7.0	5.7	5.6	5.6	-	-0.1	0.0	-	-	-	-	-0.1	
任期	3.2	4.0	10.4	19.5	27.5	27.1	8.4	25,092	5.8	0.13	4.2	5.9	7.4	5.9	6.0	5.8	-	0.1	-0.2	-	-	-	-	-0.1	
任期無																									

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)～6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、大学部局分野別)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q603. (意見の変更理由)研究者は、自らの研究と社会的課題(少子高齢化、気候変動、感染症等)との関係性や、自らの研究の社会的な意義・価値を十分に考慮しつつ、研究に取り組んでいると思いませんか。

前回	2023	差	
1	1	6	5 自分の課題として研究している。(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
2	2	6	4 かなり皆の意識が高まっている。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
3	3	6	3 気候変動についてみんな考えている。前は、アンケートが多すぎて正しく評価できていなかった。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
4	2	4	2 感染症の拡大や、食料問題などをテーマとして研究が増えているため。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,助教、研究員クラス,男性)
5	1	3	2 社会的課題そのものが学会運営自体に支障をきたし始めたため、それを何とか克服しながら研究活動を継続できるような取り組みは続いている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
6	3	5	2 高度生殖補助医療を見据えた研究が多くなってきているため(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
7	3	5	2 社会課題を意識して研究計画を立てさせるスタイルの研究費が増えてきたこともあり、社会的意義を意識した研究課題が増えてきている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
8	2	3	1 SDG'sを意識した研究課題の設定などが一般化してきた。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
9	5	6	1 コロナ禍や2023年夏の猛暑(異常気象)を通じて,SDGsへの貢献等を一層考慮するようになっていく。(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,男性)
10	4	5	1 人類的課題への取り組みが増えた(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
11	3	4	1 社会課題の解決に取り組むあるいは意識する研究者が多くなってきている(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
12	3	4	1 分野にもよるが,社会的課題との関係を意識せざるを得なくなっていると思われる。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
13	3	4	1 公的資金獲得の際など,その意義を意識せざるを得ない状況になっていると考える。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
14	3	4	1 社会実装を意識し,社会的課題を扱うという意識が高まりつつあると感じるため。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
15	2	3	1 SDGsにむけた学術界からのアクションが徐々に拡大している。○○○○○○○もシンポジウム「自然の中に潜む不確実性とは何か? 科学の目でみた持続可能性」(2023年3月12日)を開催しオンラインでも配信した。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
16	4	5	1 近年増加している自然災害や新型コロナウイルス感染症を経験することで、研究者の社会的課題に対する意識は高まっている。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
17	3	4	1 まだ不十分(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
18	2	3	1 そのようにしないと研究予算の獲得が難しくなっている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
19	3	3	0 少子高齢化などの社会的課題は考慮しつつ研究に取り組んでいると思う。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
20	6	6	0 むしろ,顕在化している問題ばかりに目を向けている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
21	5	5	0 遺伝子治療分野に関して言えば,臨床応用等に向けて様々な分野との合同シンポジウムへの取り組みや,日本政府を巻き込んだ動きが見られる(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,女性)
22	5	5	0 ○大や,○大名誉教授として他大学に移られた先生方は,社会課題の解決のために自らの研究や後輩の指導にご尽力されています。残念ながら,私は,○○大学や○○○○大学といった,今まで看護を導いて下さった大学の先生方に対しては,既得権益の死守をされていますが,看護のインベーションを拒まれ,○大の優秀な研究者の就職先が見つからないようにされている気がしてなりません。○大に関しては,優秀であれば,所属に関わらず支援をして下さい。私も修士課程のみ○大ですが,学会等でお会いする○大の先生方は,私が所属で大学教員を続けていけるよう,ご尽力いただいております。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
23	5	5	0 情報技術界隈の,特に若手世代の研究者では価値観としてかなり浸透しているように感じる。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
24	2	2	0 50代以上の基礎化学研究者は実社会とのつながりや応用について問われるのを嫌う先生が多い。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
25	4	4	0 戦略的資金を確保する上で,こういうテーマを感度よく取り上げているのが実態では,内実が伴わないものもあります。思想的な深みが無いと,付け焼刃に感じる。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
26	3	3	0 研究者個人の資質による(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
27	3	3	0 研究分野によって温度差があるように感じる(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
28	1	1	0 マスコミ受けを意識しすぎではないだろうか(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
29	2	2	0 何十年前から,言われていて,未来予想もされているにも関わらず,何も対策をしていないとは思いますが,結果的に何も変わっていないと思われます。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,助教、研究員クラス,男性)
30	5	5	0 ただし,マスコミやSNSが正しく理解せず,研究者の努力を無駄にしているのが,この国の悲劇である。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
31	4	4	0 研究申請の評価において,社会的課題への取り組みが重視されるという点を申請側は十分意識していると思う。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)

32	4	3	-1	問いにあるような研究をしている者も存在するが、全体的には分野内の視点に留まった、イノベティブとは言い難い研究をする者が多いようだから、これは学会等の派閥争いの影響で、(学会内で認められることがゴールとなり)広い視点で物事を見れなくさせているのかも、と考えられる。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
33	5	4	-1	私自身はできていない。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
34	4	3	-1	社会課題の認識はあるが、それと研究とダイレクトなつながりに苦慮している研究者が多い(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
35	4	3	-1	研究者個人の能力,資質に依存しているように感じる。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
36	4	3	-1	より広い社会課題認識を持つべき印象を持つ経験が増えた。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
37	3	2	-1	特に若手研究者は、当該分野の研究者以外は、そうした意義等を考えている余裕に乏しいように思われる。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
38	3	2	-1	学会の姿勢とそこに属する研究者の姿勢には乖離があり、最近では学会等が積極的に社会と向かい合いつつある一方、研究者個人は従来の延長にある。そうなる理由は、一人一人の研究者がより広い問題を見つめる余裕がないためと思われる(俯瞰的な視点を持つ者,その他,女性)
39	6	4	-2	予算獲得のために、ある程度社会的な要請に答えようとはしているが、それ自体を目的に研究を行なっているわけではない。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
40	6	4	-2	社会的課題との関係性を十分に考慮する研究者とそうでない研究者の差が大きくなっている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
41	5	2	-3	他国と比較すると、社会の喫緊の課題に取り組む姿勢は、日本では低いように感じる(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)

Q604. (意見の変更理由)社会的課題に基づいた研究課題の設定に際し、異分野が協働する取組(人文・社会科学と自然科学の協働も含む)は十分に行われていると思いますか。

前回	2023	差	
1	2	5	3 海外の動向をふまえて邁進している。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,男性)
2	1	4	3 半導体分野の企業との共同研究を通じて、新しい情報を獲得することができました。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
3	3	5	2 看護は統計的手法を用いる研究のみならず、哲学的な問いを考察する研究もありました。今までは「どちらの研究の方が価値があるか?」といった、不毛な議論がなされているように感じていましたが、最近では「どのような研究疑問を立てるかで必要な手法を取るのがベスト」との建設的な話し合いがなされているように感じます。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
4	1	3	2 ムーンショットのプロジェクト設定を通じて異分野の協力が意識されつつある。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
5	3	5	2 大型予算事業で総合知を意識した取り組みを推奨することが研究者に浸透してきており、総合知を意識した取り組みも増えてきている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
6	3	4	1 このような研究課題を設定しないと、助成金の受け取りが困難になりつつあり、多くの研究者がこちらの方向性を狙っていると思います。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
7	3	4	1 所属研究室が横断的な取り組みを実施しているので。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
8	2	3	1 以前より交流の機会が増えてきた(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
9	2	3	1 自身のみのものであるが、講演や寄稿依頼をこれまで接したことのない分野から受けることが増えた。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
10	1	2	1 異分野融合を促す予算が増えていて、そういった取り組みが少しずつ増えてきたように感じるため。(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,男性)
11	3	4	1 これからのトレンドになると思う(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
12	2	3	1 大学発スタートアップの増加に伴い、そういった異分野の協働事例が増えている。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
13	1	2	1 異分野との共同研究の経験がまだ少なく、提案も未熟なものが多い。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
14	1	2	1 未だ十分ではないが、実務者とのコミュニケーションが改善されつつある兆しが見られるようになったため。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
15	3	4	1 異分野融合による取組は進んでいるように思われる。(国研等マネジメント層,准教授、主任研究員クラス,男性)
16	2	3	1 アカデミアは社会的課題の解決というより、企業がそれにお金を出すから、という意識が見える。一方企業はそれ自体が価値換算される風潮の中、いろんな連携を進めている(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
17	3	4	1 カーボンニュートラルのような社会的課題がクローズアップしてきている環境において、取り組みが広がっている(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
18	2	3	1 徐々に取り組んでいこうとする傾向があると思う。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
19	3	4	1 進みつつある(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
20	2	3	1 学術領域展開ハブが創設され始まったので、その成果を期待したい。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
21	3	4	1 異分野連携は増加している(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
22	3	3	0 難しいと思うが、もうすこし実際的に取り組んでほしい(大学現場研究者・自然科学,第1G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
23	2	2	0 そのような機会がなく難しい状況だと思う。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
24	5	5	0 かなり増えてきた。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
25	2	2	0 一部の研究開発分野については、総合的なアプローチが実施されているが、大部分の研究者は従来の方法論にとどまっている。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
26	6	6	0 なんでも融合、連携すればよいというものではないと思います。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
27	2	2	0 文系の研究者と研究課題設定で話し合ったことはない。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
28	2	2	0 さまざまな外部資金が、異分野との協働を条件とした競争的資金を掲げているが、その競争的資金を取るために協働するという形になっていて、いびつであると思う。現実的には、異分野の研究者同士が知り合う機会も乏しく、一部の人々のみが協働を進めているように思う。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
29	3	3	0 異分野交流は増えているが、その質的な効果に関してはさらに要検討。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
30	2	2	0 いくつかの取り組みはあるがまだまだ。(俯瞰的な視点を持つ者,助教、研究員クラス,男性)
31	6	5	-1 十分とは言えないが、意識して進める研究者が増えている。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
32	2	1	-1 特に人文・社会科学系との連携がすくない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
33	2	1	-1 問いにあるような研究をしている者も存在するが、全体的には分野内の視点に留まった研究をする者が多いようだから、これは学会等の派閥争いの影響で、(学会内で認められることがゴールとなり)広い視点で物事を見れなくさせているのかも、と考えられる。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)

34	3	2	-1	伝統的に医学系分野が中心となっているが,社会科学・生物学・人文科学等との連携の余地が大いにある。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
35	2	1	-1	人文、社会科学との協働は全くないため(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
36	3	2	-1	分野間の縦割り感は根が深いと感じますが,改善しつつあると思う。ただし,現実にはなかなかうまくいかない。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
37	5	4	-1	共同研究でないとできない研究は行われておらず,結局個々の研究者の研究を継ぎ接ぎした研究課題ばかりである。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
38	3	2	-1	分野融合がこれからのトレンドになると思う。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
39	5	4	-1	取り組みは行われているが,必ずしも成果に結びついていない。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
40	4	3	-1	努力は見られるが,結実に至ることは簡単でない印象。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
41	3	2	-1	大学は,社会的課題の解決に向けた他機関との連携・協力ができていない。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
42	5	4	-1	コロナ禍での諸問題につき,社会科学と医学の協力関係がほとんどない。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
43	3	2	-1	申請書等において,形式的に異分野との協働がなされる事を示していることが多いが,実践においてそれが進められている例はまだ少ないと思う。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
44	2	1	-1	いつとき程言われなくなっている(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
45	4	3	-1	取り組み自体は目立つようになってきたと見受けられるもの,実働や支援,社会からの認知の面では進展が遅いように見受けられるため,評価を下げた。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,男性)
46	4	2	-2	ロボットと心理学のような領域では,もつとできることがあるように思います。人文・社会科学側が弱いのでは,議論している実例を知らないです。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)

Q605. (意見の変更理由)社会的課題の解決を目的とした研究開発の実施に際し、異分野の連携による取組(人文・社会科学と自然科学の連携も含む)が十分に行われていると思いますか。

前回	2023	差	
1	1	4	3 半導体分野の企業との共同研究を通じて、新しい情報を獲得することができました。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
2	2	4	2 これからのトレンドになると思うが、評価の仕組みが必要(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
3	1	3	2 ムーンショットのプロジェクトを通じて異分野の協力が進みつつある。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
4	3	5	2 大型予算事業で異分野連携を重要視するようになり、その意識が研究者間に定着したように思う。また異分野連携での研究の成果のインパクトを自らを感じることで積極的に異分野連携を行う研究者も増えてきている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
5	3	4	1 AIの活用が進んでいると認識される。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,女性)
6	2	3	1 学術変革A/Bなどは異分野連携の推進に有効に機能していると思う。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
7	3	4	1 所属研究室が社会課題解決を目的とした取り組みを積極的に実施しているので。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
8	2	3	1 以前より増えた(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
9	2	3	1 COI-NEXT申請など,全学的なプロジェクト申請で文理融合の研究チーム形成が進みつつある。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
10	3	4	1 分野横断的な取り組みを推奨する研究制度が増えてきた。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
11	2	3	1 異分野の連携を必須とする外部資金も増えてきているため(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
12	1	2	1 コンソーシアムを通じて異業種異分野との交流を促進するための取り組みが始まりつつあるため。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
13	2	3	1 異分野融合による取組は進んでいるように思われる。(国研等マネジメント層,准教授、主任研究員クラス,男性)
14	2	3	1 少しだけ動き出している。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
15	2	3	1 徐々に取り組んでいこうとする傾向があると思う。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
16	3	4	1 進みつつある(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
17	3	4	1 異分野連携は増加している(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
18	3	4	1 努力はしつつある(俯瞰的な視点を持つ者,その他,男性)
19	2	2	0 そのような機会がなく難しい状況だと思う。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
20	2	2	0 JSTのACT-XのAI活用等で取り組みは見られるが、実際の異分野融合は極めて困難であり、意識改革が必要だし、無理に異分野融合を進めないことも大切かもしれません。具体的な目標や社会的課題を共有し、解決に向けて協力することが成功のカギのように思われます。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
21	2	2	0 研究者が自分自身の研究アプローチや自身の成果にこだわる傾向は強く、異分野の研究者との連携については十分できていない状況ではない。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
22	4	4	0 戦略目標を意識してチームを作らないと大きな研究資金がつかないので、理系の中では異分野融合研究が徐々に広がりをを見せてきた。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
23	4	4	0 さらに推進するのがよいと思います。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
24	2	2	0 医療などでも、倫理的な問題などは、オープンに話をする環境になく、社会としての落としどころを双方で議論されているように思いません。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
25	2	1	-1 人文、社会科学との協働は全くないため(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
26	5	4	-1 増えているニーズに対して、対応できる人文社会科学研究者が増えておらず、同じ人に集中しすぎている。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
27	4	3	-1 人的・物的資源が不足(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
28	3	2	-1 分野融合がこれからのトレンドになると思う。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
29	4	3	-1 一部取り組まれているが、成果にむすびついているのはごく僅かである。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
30	4	3	-1 問5-04同様,設定も実施も十分とは言えない。(大企業の代表等,教授、部局長等クラス,男性)
31	4	3	-1 取り組み自体は増えた印象があるが、体系的でなく、持続的な動きになっている気がしないので、評価を下げた。また、社会からの認知もあまり進んでいるように見受けられず、改善の余地があると考えたため。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,男性)
32	2	1	-1 異分野融合の研究を行うと、研究成果を発表する場(論文を投稿し受け入れてくれる学術誌)をなかなか見付けられないという課題がある。他分野との融合研究を受け入れる土壌が各学問分野に醸成されないと、融合研究の進展は難しいのではないかと。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,女性)
33	5	3	-2 研究分野としては協働への取り組みはなされているが、細かい視点で見ると閉じこもったコミュニティ内で閉じてしまっている例が多くある。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,助教、研究員クラス,男性)
34	3	1	-2 問いにあるような研究をしている者も存在するが、全体的には分野内の視点に留まった、似た視点の研究者だけで研究をする者が多いようだから、これは学会等の派閥争いの影響で、(学会内で認められることがゴールとなり)広い視点で物事を見れなくさせているのかも、と考えられる。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)

Q606. (意見の変更理由)イノベーションを促進するために、制度の充実等(規制の導入や緩和を含む)の手段が、十分に活用されていると思いますか。

	前回	2023	差	
1	3	4	1	良い方向に向かっている。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
2	3	4	1	進みつつある(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
3	3	4	1	大学における支援や企業側の意識が,良い方向に変化しつつあるものと思われる。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
4	3	4	1	SBIR制度の改定(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
5	2	2	0	医療に関して言うと,医師の発言力が強すぎるのではないのでしょうか,透明性が不足していると思います。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
6	1	1	0	グリーンイノベーション基金など創出されたが条件が厳しすぎて活用しづらい。(大企業の代表等,教授、部局長等クラス,男性)
7	3	3	0	大学などの教育機関もドラスティックな研究者管理法を再検討する必要がある(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
8	2	2	0	例えば,最近では,ライドシェアがありますが,どうも既得権や利害関係は背景にある感じがします.規制緩和でタクシー業界,バス,トラックなどインフラの緩和は,産業構造をさらに崩壊させることにならないのかと思います。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,助教、研究員クラス,男性)
9	3	3	0	制度の充実は進んでいると思うが,その周知の進展はもう少しではないか。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
10	2	1	-1	制度の広報が不足していると感じています(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)

Q607. (意見の変更理由)科学技術をもとにしたベンチャーの起業・経営への支援(リスクマネーの確保、挑戦や失敗を許容する環境の整備、情報・ノウハウの提供等)は十分だと思いますか。

前回	2023	差	
1	1	3	2 大学発スタートアップの育成のために国が1000億円超の基金を作った点を評価。(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
2	2	4	2 スタートアップ育成5か年計画や補正予算での手当などベンチャー支援の厚みが増している(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
3	2	3	1 良くなりつつある(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
4	2	3	1 起業を進めるべきという声は高まっており,各種支援も増えつつあると思われる(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
5	3	4	1 それを目的とした支援が増えてきた。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
6	2	3	1 先進的な大学では環境が整いつつある。一方,そうでない大学との格差が拡大しつつある。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
7	2	3	1 まだ十分ではないが,ベンチャー支援は増えていると思われる。(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,女性)
8	2	3	1 環境は整いつつある。しかし,一部のコンサルや人材に支援依頼が偏っている。未経験者でも興味がある人材を支援人材として育成することも必要。(大学マネジメント層,准教授,主任研究員クラス,男性)
9	2	3	1 宇宙分野では進展がみられる。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
10	2	3	1 民間企業のベンチャーへの投資は増えている感覚はあるが,十分とは言えない(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
11	1	2	1 大学発ベンチャーの存在感は高まっていると感じる。(大企業の代表等,教授,部局長等クラス,男性)
12	1	2	1 徐々にスタートアップの情報は普及し始めて来ている。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
13	2	3	1 ベンチャーへの投資資金,研究開発の助成金が増加している。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
14	1	2	1 支援環境はやや上向いているが,まだ不十分である。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
15	1	2	1 研究室発の科学技術の活用が増えてきていると思われる。(俯瞰的な視点を持つ者,その他,男性)
16	1	1	0 知財や環境整備などのサポート体制がとても弱い。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
17	3	3	0 だいぶ,増えてきてはいる(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
18	3	2	-1 失敗を許容する環境が不足している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
19	2	1	-1 社会制度として,階級が固定化し,一度失敗すると復活が難しい社会なので,真に優秀な人は起業しているのでしょうか。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
20	2	1	-1 例えばインボイス制度はベンチャーを起業するうえでの足枷です。こういう「本質的ではない苦勞」を強いる制度が日本には多すぎます。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
21	2	1	-1 スタートアップへの資金供給の減少もあって,環境は悪化していると思われる。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)

Q608. 最先端技術の実証実験を行うことのできる場(スーパーシティ、スマートシティ等)が十分に拡大していると思いませんか。

集計グループ	2023年度調査											各年の指数					指数の変化						
	分からない	6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準偏差	第1四分点	中央値	第3四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年
		1	2	3	4	5	6																
大学の自然科学研究者	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国等の自然科学研究者	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重点プログラム研究者	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
人文・社会科学系研究者	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学マネジメント層	1.6	12.8	47.7	31.3	5.3	1.2	0.0	243	2.7	0.00	2.1	2.9	4.0	2.6	2.7	2.7	-	0.1	0.0	-	-	-	0.1
国研等マネジメント層	12.1	13.8	37.9	27.6	6.9	1.7	0.0	58	2.7	0.00	2.0	3.0	4.2	2.3	2.7	2.7	-	0.4	0.0	-	-	-	0.4
企業全体	8.1	23.0	44.2	20.6	3.7	0.6	0.0	4,098	2.1	0.13	1.7	2.5	3.5	2.3	2.2	2.1	-	-0.1	-0.1	-	-	-	-0.2
大企業	5.6	13.4	37.3	32.4	8.5	2.8	0.0	831	2.9	0.15	2.1	3.2	4.4	2.8	2.9	2.9	-	0.1	0.0	-	-	-	0.1
中小企業・大学発ベンチャー	8.7	25.4	45.9	17.5	2.5	0.0	0.0	3,267	1.9	0.16	1.5	2.4	3.2	2.2	2.0	1.9	-	-0.2	-0.1	-	-	-	-0.3
俯瞰的な視点を持つ者	12.7	12.7	43.0	19.7	9.2	2.8	0.0	934	2.8	0.16	2.0	2.9	4.2	2.7	2.6	2.8	-	-0.1	0.2	-	-	-	0.1
大学グループ	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第1グループ	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第2グループ	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第3グループ	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第4グループ	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学部局分野	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
理学	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
工学・農学	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
保健	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
臨床	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
臨床以外	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教授	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
准教授	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
助教	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
任期有	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
任期無	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)～6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、大学部局分野別)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q608. (意見の変更理由)最先端技術の実証実験を行うことのできる場(スーパーシティ、スマートシティ等)が十分に拡大していると思いますか。

	前回	2023	差	
1	2	3	1	徐々に拡大している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
2	3	4	1	地域により,そういった実験場の誘致が徐々に増えてきている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
3	2	3	1	少しずつではあるが進展してきている(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
4	2	3	1	そのような取組みの情報に接することが多くなった(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
5	3	4	1	社会課題に取り組むための競争的資金の増加とともに大学等の研究者が実証実験に参加する機会は増えている(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
6	2	3	1	少しずつ拡大してきた(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
7	3	4	1	少しずつ拡大しているように思われる。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
8	1	2	1	すこずつ出てきてはいるがまだまだ不十分。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
9	2	3	1	拡大の兆しはみられるが十分とは言えない(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
10	2	3	1	社会の新しい技術の受容性に関する議論がもっと必要である。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
11	2	3	1	進みつつあるが不十分(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
12	2	3	1	〇〇〇ではこうした取組みが熱心に行われているため,拡大している印象がありますが,ローカルな現象かもしれません。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
13	2	2	0	理工系での実証の場に限られる。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
14	3	3	0	これも増えているが,成果の見える化が必要(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
15	1	1	0	人間(生活)と自然との共生の促進に最先端技術を使うべきである。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
16	5	4	-1	最先端技術の実証実験を行うことのできる場は,まだ一部の地域に限られている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
17	2	1	-1	規制が厳しい日本や,既存の企業の利権が優先される社会では,難しいと思います。既存の企業が政治的にこういう動きを止めているのでは。特に電力業界について感じます。批判を避けるために透明性が低いです。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
18	3	2	-1	減少傾向と認識しています。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
19	4	3	-1	トピックだけで持続的な取組みがみえてこない。(大企業の代表等,教授,部局長等クラス,男性)

Q609. (意見の変更理由)国は金融財政支援(政府調達、補助金、税制優遇等)を通じて、企業の研究開発投資の促進を十分に行うことができていると思いますか。

前回	2023	差	
1	2	4	2 企業の研究開発のための資金調達を調べることで、国の行っている補助金や税制優遇が当初考えている以上に充実していることが判明したため。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
2	3	4	1 半導体,電池を中心に資金枠は確実に増えている。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
3	2	3	1 政府調達,補助金,税制優遇において,ベンチャー支援およびベンチャーと大企業とのオープンイノベーションを促そうという施策が増えてきた。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
4	2	3	1 企業の研究開発投資について,十分とは言えないかもしれないが,ある程度はなされているように感じられる。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,女性)
5	2	2	0 CN,資源循環社会に向け,支援拡大は実感しているが,まだ不十分。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
6	1	1	0 この点が不透明でもある。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
7	1	1	0 改良のような事案に対しては,税制優遇が認められていません.そういう部分の蓄積で社会を変える発明が生まれると思う.徴税サイドのイノベーションに対する考え方を社会で議論するべきだと思います。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
8	2	2	0 政府の予算執行におけるムダ金をもっと教育と研究に費やすべき(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
9	2	2	0 スタートアップ側の予算は増えているようです。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
10	2	2	0 一部の意見に偏った無理な施策も見受けられる。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
11	2	2	0 寄付控除を年度を繰り越せるようにすることが必要です。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
12	1	1	0 金額が少なすぎる(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
13	3	2	-1 民間ほど補助率の低いファンドしかなくなくなり,受託すると赤字になる政府支援が増えている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)

Q610. (意見の変更理由)オープンイノベーション拠点の整備に向けた産学官の取組は十分に行われていますか。

前回	2023	差	
1	2	4	2 助成金制度の充実や官民で施設整備が進んできていると実感している。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
2	2	3	1 徐々に取組が進んできている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
3	2	3	1 十分ではないが本学を含め増えつつあることは確か(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
4	2	3	1 進展しつつある(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
5	2	3	1 少しずつであるが,プロジェクト型の補助事業により進みつつある状況にあると思われる(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
6	3	4	1 難しい目標ではあるが,コンソーシアム体を活用した取り組みが始まりつつあるため。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
7	3	4	1 具体的な動きをよく目にするようになった。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
8	2	3	1 拠点はいろいろできつつあるのでは,と思います。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
9	3	4	1 産業界ではオープンイノベーションへの努力が増している印象。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
10	3	4	1 十分とは言えないかもしれないが,オープンイノベーションの意識は広がってきているものと思われる。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
11	4	5	1 大学間の格差は明確になってきたがトップクラスの大学における拠点整備はかなり完成度が高くなっている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
12	1	2	1 前進している印象がありますが,十分には見えません。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
13	2	2	0 自治体により取り組みの差が大きい(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
14	2	2	0 部分的でしかない(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
15	2	2	0 ○○大学は整備を進めている事例があります。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
16	4	4	0 具体的成果はともかく,取り組みは積極的に行われるようになってきた(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
17	4	4	0 大学側が構築の動きを見せているように感じる(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)

Q611. (意見の変更理由)産学官が連携して、研究開発の成果に基づいた標準化(フォーラム標準・デファクト標準・デジュール標準等)を進めるような体制の整備が十分に行われていると思いますか。

	前回	2023	差	
1	2	4	2	大型予算事業では標準化を意識した研究も積極的に行われており、環境は改善している。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
2	3	4	1	標準化を支援する国の施策が一部見え始めているため。(国研等マネジメント層、学長等クラス、男性)
3	2	3	1	標準化をビジネスツールとして活用するための人材育成が始まった。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
4	2	3	1	進んでいると思うが、周知は不十分ではないか。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
5	2	2	0	特に国際的な標準化に対する研究側のインセンティブやサポートが少ない(国研等マネジメント層、学長等クラス、男性)
6	1	1	0	車企業など、企業が主体でやっているのでは、欧米が提案する規格に乗るか乗らないかは政府の戦略がまず大事では、行政に優秀な人がいる領域では進んでいるか?でも行政官も任期で動くので継続性に課題がある場合もあるように思います。(大企業の代表等、学長等クラス、男性)
7	2	2	0	標準化自体が目的ではないと思います。標準化活動・整備の結果により産業の活性化が行われたか?であれば答えようがありますが(大企業の代表等、学長等クラス、女性)
8	2	2	0	標準化のプロセスを支援する機関の数が少ない。専門家も少ない(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
9	2	2	0	特に欧州等で進む標準化に策定からかわることはできない印象(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
10	3	2	-1	産学官が連携して世界標準を進めるような体制の整備は、コロナ禍の間にやや後退した印象を受ける。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
11	2	1	-1	標準化を進められる人材を巡る状況は、現在も変わっておらず相変わらず不足していると聞いたため。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、女性)

Q612. 科学技術における国際連携(国際的な人的ネットワークの構築、国際共同研究等)が十分に行われていると思いますか。

集計グループ	2023年度調査											各年の指数					指数の変化							
	分らない	6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準差	第4四分点	中央値	第3四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年	
		1	2	3	4	5	6																	
		1	2	3	4	5	6																	
大学の自然科学研究者	2.9	5.1	18.3	26.9	22.0	19.6	5.1	32,764	5.0	0.12	3.4	4.9	6.7	5.2	5.0	5.0	-	-0.2	0.0	-	-	-	-0.2	1
国研等の自然科学研究者	4.4	0.4	14.0	24.7	24.1	22.2	10.2	6,393	5.8	0.26	4.0	5.6	7.3	5.7	5.7	5.8	-	0.0	0.1	-	-	-	0.1	2
重点プログラム研究者	2.3	5.0	20.8	28.2	26.3	14.7	2.7	800	4.7	0.12	3.2	4.7	6.2	4.9	4.7	4.7	-	-0.2	0.0	-	-	-	-0.2	3
人文・社会科学系研究者	1.3	4.7	27.5	12.3	31.1	21.2	1.9	2,145	4.9	0.35	2.9	5.3	6.6	5.0	5.0	4.9	-	0.0	-0.1	-	-	-	-0.1	4
大学マネジメント層	2.1	3.3	37.4	41.6	15.2	0.4	0.0	243	3.4	0.00	2.6	3.7	4.6	3.4	3.4	3.4	-	0.0	0.0	-	-	-	0.0	5
国研等マネジメント層	1.7	5.2	15.5	29.3	39.7	8.6	0.0	58	4.6	0.00	3.6	5.0	6.0	4.6	4.7	4.6	-	0.1	-0.1	-	-	-	0.0	6
企業全体	20.3	10.9	37.0	21.6	9.5	0.7	0.0	4,098	2.8	0.16	2.1	3.0	4.3	3.0	2.7	2.8	-	-0.3	0.1	-	-	-	-0.2	7
大企業	17.6	4.2	27.5	33.8	16.2	0.7	0.0	831	3.6	0.14	2.7	3.8	4.8	3.5	3.6	3.6	-	0.1	0.0	-	-	-	0.1	8
中小企業・大学発ベンチャー	21.0	12.5	39.4	18.5	7.9	0.7	0.0	3,267	2.6	0.20	2.0	2.8	4.0	2.9	2.5	2.6	-	-0.4	0.1	-	-	-	-0.3	9
俯瞰的な視点を持つ者	5.6	11.3	37.3	23.9	14.8	7.0	0.0	934	3.3	0.18	2.2	3.3	4.9	3.6	3.3	3.3	-	-0.3	0.0	-	-	-	-0.3	10
第1グループ	3.3	5.9	10.4	26.9	21.0	23.5	9.0	6,244	5.5	0.23	3.8	5.4	7.3	5.6	5.4	5.5	-	-0.2	0.1	-	-	-	-0.1	11
第2グループ	3.3	6.7	19.0	22.5	22.9	17.9	7.7	8,926	5.0	0.24	3.2	5.0	6.8	5.2	5.1	5.0	-	-0.1	-0.1	-	-	-	-0.2	12
第3グループ	2.3	4.6	16.4	27.6	26.3	21.0	1.7	8,130	5.0	0.22	3.5	5.0	6.6	5.1	5.0	5.0	-	-0.1	0.0	-	-	-	-0.1	13
第4グループ	2.9	3.5	24.7	30.5	18.2	17.4	2.8	9,463	4.6	0.23	3.1	4.4	6.3	5.0	4.7	4.6	-	-0.3	-0.1	-	-	-	-0.4	14
理学	0.6	1.2	9.9	22.6	23.1	30.2	12.4	5,050	6.2	0.24	4.4	6.2	7.6	6.4	6.3	6.2	-	-0.1	-0.1	-	-	-	-0.2	15
工学・農学	2.6	6.2	16.2	26.7	20.8	22.5	5.1	14,627	5.1	0.17	3.5	5.0	6.9	5.4	5.3	5.1	-	-0.1	-0.2	-	-	-	-0.3	16
保健	4.3	5.5	24.1	28.9	22.9	12.3	2.1	13,086	4.4	0.20	2.9	4.4	6.0	4.6	4.3	4.4	-	-0.3	0.1	-	-	-	-0.2	17
臨床	5.3	2.4	26.8	28.6	23.9	13.0	0.0	2,691	4.4	0.33	3.0	4.4	5.9	4.6	3.7	4.4	-	-0.9	0.7	-	-	-	-0.2	18
臨床以外	2.7	5.4	17.6	26.8	21.9	20.2	5.5	30,073	5.0	0.12	3.4	4.9	6.8	4.6	4.5	5.0	-	-0.1	0.5	-	-	-	0.4	19
教授	1.6	3.1	18.7	25.9	21.3	24.8	4.6	12,627	5.2	0.18	3.5	5.1	7.0	5.3	5.2	5.2	-	-0.1	0.0	-	-	-	-0.1	20
准教授	2.2	7.0	16.4	27.8	24.4	17.1	5.2	14,013	4.9	0.19	3.4	4.9	6.5	5.3	5.1	4.9	-	-0.2	-0.2	-	-	-	-0.4	21
助教	7.5	5.0	22.1	27.0	18.3	14.5	5.6	6,124	4.7	0.25	3.0	4.5	6.4	5.1	4.8	4.7	-	-0.3	-0.1	-	-	-	-0.4	22
男性	2.4	5.3	18.4	26.2	22.1	20.1	5.3	27,649	5.0	0.13	3.4	4.9	6.8	5.2	5.1	5.0	-	-0.1	-0.1	-	-	-	-0.2	23
女性	5.7	4.0	17.9	30.5	21.5	16.8	3.7	5,115	4.9	0.15	3.4	4.7	6.4	5.1	4.9	4.9	-	-0.2	0.0	-	-	-	-0.2	24
任期有	4.7	5.2	17.2	29.3	24.6	15.0	4.0	7,672	4.8	0.21	3.4	4.8	6.3	5.1	4.8	4.8	-	-0.3	0.0	-	-	-	-0.3	25
任期無	2.4	5.1	18.7	26.2	21.3	21.0	5.4	25,092	5.0	0.13	3.4	4.9	6.8	5.3	5.1	5.0	-	-0.2	-0.1	-	-	-	-0.3	26

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)～6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、学部局分野別)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q612. (意見の変更理由)科学技術における国際連携(国際的な人的ネットワークの構築、国際共同研究等)が十分に行われていると思いますか。

前回	2023	差	
1	3	5	2 研究内容に依るが、増えている気がする。(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,女性)
2	2	4	2 コロナが終息し、国際連携を促進する外部資金も増えるなど、国際活動が活発になってきたため。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
3	4	5	1 国際連携、ネットワーク構築、共同研究などに積極的に取り組んでいる。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
4	2	3	1 国際連携の体制が整った組織では取り組まれている印象。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
5	2	3	1 国際先導研究がはじまった。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
6	2	3	1 分野の違いもあるが、国際連携をする人はしており、無理やり増やすわけにもいかない(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
7	1	2	1 国際連携できる教員がまだ少ないように見受けられる。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
8	3	4	1 進みつつある。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
9	2	3	1 科研費の国際共同研究加速基金が充実されたため(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
10	2	3	1 スタートアップ企業に関与する研究者を中心に国際連携への意識は高くなっていると感じる。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
11	2	3	1 研究者個人レベルでの国際連携は少なくないが、ファンディング機関が他国のカウンターパートと連携して行う国際共同研究プログラムはまだ小規模であるため。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,女性)
12	3	3	0 分野と研究者によって状況は大きく異なります。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
13	1	1	0 コロナを経て、日本の研究プレゼンスの失墜が完了した印象がある。国際学会でPlenary Lectureで呼ばれる日本人はほとんどいなくなったのではないかと。JST ASPIREで反転の兆しが芽生えることに期待している。また、円安を反映して国外出張へのハードルが非常に高くなった。時間も研究費も十分でないで、招待講演で呼ばれない限りは、日本人研究者が自ら海外に発表しに行くことはないと思われる。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
14	1	1	0 国際共同研究は自分としては大いに行いたい、入試業務をはじめとした校務や授業負担が大きすぎて積極的に進められないのが実情である。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
15	3	3	0 JETROなどの支援が少しは増えているが予算投入が少ない(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
16	1	1	0 管吹けど踊らずである(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
17	1	1	0 国際ネットワーク作りには手間がかかる。それを支援する仕組みが全くない。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
18	3	2	-1 コロナ禍でネットワーク構築力は弱くなっている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,女性)
19	2	1	-1 国際共同研究は減っているように感じる。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
20	2	1	-1 昨年度、国際共同研究に本格的に取り組む、国際連携を進めるための課題として、手続きや支援の複雑さ(研究者負担の増加)、経費(金額、支出の自由度と手続き)、情報の公開(迅速さ)において、感じたため。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
21	3	2	-1 コロナ禍以降交流が少なくなっている。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,男性)
22	3	2	-1 国プロの要請を満たすために義務的に進んでいる事例が増えており、研究者同士のボトムアップのモチベーションに基づく古き良き国際共同研究は失速しているように感じる。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
23	3	2	-1 形だけの国際連携が多い(年に1-2回意見交換するだけなど)(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,男性)
24	3	2	-1 衰弱してきていると感じる(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
25	3	2	-1 国際連携が評価される仕組みはないため、研究の必要性に応じて個々の研究者がネットワーキングを行うだけである。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
26	4	3	-1 国際連携は十分とは言えない(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
27	3	2	-1 旧来のつながりは保たれているが、パンデミック等を経て、新たなつながりを作りそびれた数が増えている印象。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
28	3	2	-1 国際連携が一部を除き弱まってきていると感じる。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
29	3	2	-1 コロナ禍のオンライン化推進で、ある程度進んだ面もあったかと思いましたが、現地での海外交流が復活しはじめ実際に海外に出ると、日本が取り残されているような印象を受け、やはり大きな危機をあらためて感じた。研究分野にもよると思うが、個人対個人のお付き合いがある方はある程度いるが、もともと基盤がない方も含めて活性化させようとする、現在の手法では難しいように思う。また、国内研究コミュニティ全体で国際交流を活性化させることもより必要と思った。良い研究成果⇒外に出る、であるので、やはり国内の研究環境充実が一丁目一番地だと思う。以上をふまえて、評価を下げる判断をした。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,男性)
30	4	2	-2 国際連携に携われる人材が少ないように思うし、そういった機会をどうやって得られるのかわからない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
31	4	2	-2 さらに努力が必要である。国際共同研究は個人的なネットワークが必須であるのでまだ不十分ではないか。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
32	4	2	-2 コロナ禍(俯瞰的な視点を持つ者,その他,男性)

33	5	2	-3	特に欧米への渡航が円安のためしにくくなっている.十分な国際連携をとれるための予算が無い.(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
34	6	3	-3	国際研究コミュニティにおける日本の存在感が低下し,国際連携も減っているように感じる.(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)

Q613. (意見の変更理由)国際共同研究を推進するにあたり、日本の制度(研究資金の利用ルール、知財権の取扱いのルール等)は、国際的な慣行に照らして十分に適切であると思いますか。

前回	2023	差	
1	2	4	2 ASPIREに期待する(重点プログラム研究者,教授,部局長等クラス,男性)
2	2	3	1 円安等は障害だが,日本の各種制度が国際的に見て激しく遅れているとまではいえない(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
3	2	3	1 制度の整備は進んできているように思われる。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
4	2	3	1 様々な努力が進んでいるが,人材が足りない。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
5	3	4	1 予算の基金化など,柔軟な使用ができるようになってきている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
6	2	3	1 問題が少なくなったように見受けられる。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
7	1	2	1 ようやく国際的にデータを共有して研究するなどの利活用の課題を認識し,取り組んでいる途上と思う。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,女性)
8	3	4	1 日本には国全体で統一したルールは無く,府省庁ごと・プログラムごとにルールは異なっている。また,諸外国もそれぞれルールがあり「国際的な慣行」などは無いと思う。当方が把握している限りでは,各国・各機関・各プログラムそれぞれであり,日本のルールも意図や意義がある。国際共同研究は目的ではなく手段であるため,政府やファンディング機関は,各国のルールに関する既存研究成果を踏まえて,日本が何を指すのか,そのために国際共同研究のルールはどうあるべきか,政策の方向性を検討すべきと考える。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授,主任研究員クラス,女性)
9	1	1	0 オープンサイエンスを不必要に振りかざす大きな大学の先生には辟易する。また,途上国などオープンサイエンスをする上と不利な国々も多い事が最近わかったが,日本はそのような国々の意見を代弁することをうまくやって立ち回れば,国際社会で尊敬と政治力を再び獲得できるように思う。(国研等現場研究者・自然科学,准教授,主任研究員クラス,女性)
10	1	1	0 実運用として,日本の国費プロジェクトに海外のメンバーを加えるときの契約(特に知財の扱い)のハードルが高すぎる。もっと柔軟な契約形態を提示するか,JST等に国際交渉ができる人材を配置しないと厳しい。一時期高まっていた国際共同研究の機運が,あまりに運用が難しく下がっているのを感じる。(重点プログラム研究者,教授,部局長等クラス,男性)
11	2	2	0 欧米と比較すると予算額が大きく異なります。(重点プログラム研究者,教授,部局長等クラス,男性)
12	3	3	0 制度の準備は現時点では十分である。改善するとしたら,問題が出てきた時にその改善という形で行われるべき状況であろう。問題は活用できるレベルの国際共同研究の数と規模が十分ではない点である。(重点プログラム研究者,教授,部局長等クラス,男性)
13	1	1	0 学内手続きも含め,煩雑すぎる場所が多い。また,日本の制度を理解してもらうためにまず国内担当教員が対応しないと出来ないことも多く,事務的な負担も考えると,迂闊に手を出せないというのが本音である。(人文・社会科学系研究者,教授,部局長等クラス,女性)
14	4	4	0 ルールは遜色ないが,知識と意識の問題は残る(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
15	1	1	0 ドイツなどの2+2事業では,日本側の資金がなくて,ダメになったケースが多い(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
16	3	3	0 適切であっても,きちんと説明する努力・資料を整備する必要があります。今はその負担が現場に来ています。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
17	1	1	0 対等な立場で国際共同研究ができる国とそうでない国があるので,予算使用を見直すべき。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
18	1	1	0 科研費などの予算に柔軟性がなすぎると研究に悪影響を与えている。一律の7掛けでの配分なども合理的でない。大型プロジェクトはコンテンツを積み重ねるべき。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,女性)
19	3	2	-1 交通費や滞在費に20%の税金がかかったり,現金支給しかなかったり,という状況は国際的に問題がある。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授,部局長等クラス,女性)
20	2	1	-1 研究資金のガラバゴスルール(自由度の低さ)は国際研究の一番のハードル(邪魔)(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,准教授,主任研究員クラス,男性)
21	4	3	-1 日本の制度は他国よりも,研究資金の利用ルールに関して厳しすぎて使いにくいところがあるように思います。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,助教,研究員クラス,女性)
22	2	1	-1 やや融通が利かず,他国よりも使い辛い形になっている印象がある。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,准教授,主任研究員クラス,女性)
23	2	1	-1 海外の共同研究者から,日本の研究費の安さにすごくびっくりされてちょっと恥ずかしかった。基盤Bと同じような競争的研究費でもヨーロッパ・オーストラリアと比べて,やっぱり1桁違う。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授,主任研究員クラス,男性)
24	3	2	-1 日本の研究資金は制約が多く,国際基準から見ると使いにくいと思う。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授,部局長等クラス,女性)
25	2	1	-1 国際学会での発表を通して研究者と知り合い,国際共同研究に発展する,というシチュエーションが結構あるので,国際共同研究の推進には,国際学会に現地オンサイトで参加することが望ましい。ただ,ローカルルールかもしれないが,多くの大学や研究機関における海外旅費規定がここ20年程ずっと1泊20000円未満の定額支給で変わっておらず,円高の時は差額を自腹で払ってもよかったが,現在では差額が自腹を切れる金額ではなくなっており,国際学会に現地オンサイトで参加することが難しくなっている。(オンライン参加だと共同研究が発展するまでの盛り上がりにはならない。)海外旅費規程の柔軟な対応要請を国から出してほしい。(国研等現場研究者・自然科学,准教授,主任研究員クラス,女性)
26	2	1	-1 日本でしか使用できない資金ばかりでは,国際共同研究は進まない(重点プログラム研究者,助教,研究員クラス,男性)
27	6	5	-1 JSPSの二国間交流事業においては,相手国がいわゆる第三世界の国の場合,先方からの資金を期待することが,大変難しい。相手国の方の調査費用,また日本に招へいするための資金枠も相手国の経済状況を鑑みてぜひつっていただきたい。(人文・社会科学系研究者,准教授,主任研究員クラス,女性)
28	4	3	-1 技術進歩に追い付けないルールのグレーゾーンが目立ってきた(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)

29	2	1	-1	研究資金の利用ルールが細かすぎ、柔軟な運営ができない。(特に飲食等の交際費にあたる部分に制限が多いことにより、海外の大学でこちらが受ける接遇と同等の対応をすることができないことは困る)(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、女性)
30	3	1	-2	国際的な交際において飲食を伴わない交流は奇妙。アルコールに関しても外国では含まれる。日本の現行ルールは国際化に対応していない。(大学現場研究者・自然科学、第1G、工学、准教授、主任研究員クラス、男性)
31	5	3	-2	ABS等、日本はもう少し積極的に立場を表明しても良いように思う。(大学現場研究者・自然科学、第2G、農学、准教授、主任研究員クラス、女性)
32	4	2	-2	円安加速とともに、研究資金の利用ルールも変えるべき。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
33	5	2	-3	外為法がザル。民間がこれほど急いで中国外しを実行しているのに、大学は平気で中国人を受け入れ、機密情報を垂れ流している。いずれ民間企業からの共同研究費が入ってなくなると思う。海外からも白い目で見られている事に研究者は気付くべき。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
34	5	1	-4	旅費支給のルールがおかしい。(大学現場研究者・自然科学、第2G、工学、教授、部局長等クラス、女性)
35	5	1	-4	中国を排除した国際共同研究を進める政府の方針は不適切(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)

Q614. 研究者は、研究活動の国際化に伴って生じる利益相反・責務相反のリスク要因※に対して、十分な意識を持っていると思いますか。

集計グループ	2023年度調査											各年の指数					指数の変化								
	分らない	6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準差	第1四分点	中央値	第3四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年		
		1	2	3	4	5	6																		
		7.7	3.1	11.3	21.3	28.6	7.3																		
大学の自然科学研究者	7.7	3.1	11.3	21.3	28.6	7.3	32,764	5.6	0.11	4.0	5.6	7.1	5.5	5.6	5.6	-	-	0.1	0.0	-	-	0.1	0.1		
国研等の自然科学研究者	6.8	1.7	9.9	21.6	22.5	11.9	6,393	6.1	0.28	4.2	6.0	7.6	5.8	6.3	6.1	-	-	0.5	-0.2	-	-	-	0.3	0.2	
重点プログラム研究者	11.6	5.0	14.7	22.0	23.2	17.8	800	5.2	0.14	3.5	5.2	6.8	5.0	5.0	5.2	-	-	0.0	0.2	-	-	-	0.2	0.2	
人文・社会科学系研究者	5.9	6.0	15.8	9.5	23.0	32.1	7.7	2,145	5.8	0.40	3.6	6.1	7.5	5.7	5.5	5.8	-	-	-0.2	0.3	-	-	-	0.1	0.1
大学マネジメント層	0.4	1.2	21.0	32.9	28.8	14.8	0.8	243	4.8	0.00	3.5	4.7	6.1	4.5	4.5	4.8	-	-	0.0	0.3	-	-	-	0.3	0.3
国研等マネジメント層	0.0	1.7	15.5	29.3	36.2	17.2	0.0	58	5.0	0.00	3.8	5.2	6.3	4.9	5.1	5.0	-	-	0.2	-0.1	-	-	-	0.1	0.1
企業全体	28.4	10.9	21.8	19.1	14.1	4.6	1.1	4,098	3.5	0.24	2.2	3.6	5.2	3.3	3.2	3.5	-	-	-0.1	0.3	-	-	-	0.2	0.2
大企業	25.4	4.2	19.0	26.8	17.6	6.3	0.7	831	4.1	0.19	2.9	4.2	5.6	4.0	4.0	4.1	-	-	0.0	0.1	-	-	-	0.1	0.1
中小企業・大学発ベンチャー	29.2	12.5	22.5	17.2	13.2	4.2	1.2	3,267	3.4	0.30	2.0	3.4	5.1	3.1	3.0	3.4	-	-	-0.1	0.4	-	-	-	0.3	0.3
俯瞰的な視点を持つ者	11.3	7.7	24.6	31.0	19.0	5.6	0.7	934	3.8	0.18	2.6	4.0	5.3	3.3	3.6	3.8	-	-	0.3	0.2	-	-	-	0.5	0.5
第1グループ	7.4	2.0	7.9	17.8	24.0	30.3	10.6	6,244	6.3	0.22	4.6	6.3	7.6	5.8	5.8	6.3	-	-	0.0	0.5	-	-	-	0.5	11
第2グループ	10.8	2.8	13.5	13.9	30.0	22.8	6.1	8,926	5.7	0.20	4.0	5.8	7.2	5.5	5.6	5.7	-	-	0.1	0.1	-	-	-	0.2	12
第3グループ	7.0	2.2	9.3	29.6	34.7	14.9	2.3	8,130	5.2	0.17	4.0	5.3	6.4	5.3	5.2	5.2	-	-	-0.1	0.0	-	-	-	-0.1	13
第4グループ	5.5	4.7	13.3	23.4	25.0	17.6	10.4	9,463	5.5	0.26	3.7	5.4	7.1	5.6	5.6	5.5	-	-	0.0	-0.1	-	-	-	-0.1	14
理学	8.4	0.6	4.8	19.3	26.2	29.2	11.4	5,050	6.5	0.22	4.8	6.3	7.7	6.2	6.3	6.5	-	-	0.1	0.2	-	-	-	0.3	15
工学・農学	8.3	3.5	13.5	22.4	25.6	19.3	7.4	14,627	5.4	0.16	3.8	5.4	7.0	5.6	5.5	5.4	-	-	-0.1	-0.1	-	-	-	-0.2	16
保健	6.7	3.5	11.4	20.8	32.8	19.3	5.6	13,086	5.5	0.19	4.0	5.6	6.8	5.3	5.3	5.5	-	-	0.0	0.2	-	-	-	0.2	17
臨床	7.1	3.8	14.5	13.4	36.0	22.1	3.2	2,691	5.5	0.35	4.0	5.7	6.8	5.3	5.0	5.5	-	-	-0.3	0.5	-	-	-	0.2	18
臨床以外	7.7	3.0	11.1	22.0	27.9	20.7	7.6	30,073	5.6	0.12	4.0	5.6	7.1	5.3	5.4	5.6	-	-	0.1	0.2	-	-	-	0.3	19
教授	7.9	2.5	13.9	21.3	22.5	26.5	5.4	12,627	5.6	0.18	3.9	5.6	7.2	5.6	5.7	5.6	-	-	0.1	-0.1	-	-	-	0.0	20
准教授	5.9	4.2	8.4	24.3	31.3	17.3	8.5	14,013	5.6	0.17	4.1	5.5	6.9	5.4	5.4	5.6	-	-	0.0	0.2	-	-	-	0.2	21
助教	11.3	1.8	12.8	14.2	34.8	17.0	8.2	6,124	5.7	0.25	4.2	5.7	7.0	5.7	5.6	5.7	-	-	-0.1	0.1	-	-	-	0.0	22
男性	7.6	2.6	11.2	20.9	29.2	21.3	7.3	27,649	5.7	0.13	4.1	5.7	7.1	5.6	5.6	5.7	-	-	0.0	0.1	-	-	-	0.1	23
女性	8.4	5.7	12.1	23.5	24.9	18.2	7.2	5,115	5.3	0.16	3.7	5.3	6.9	5.4	5.4	5.3	-	-	0.0	-0.1	-	-	-	-0.1	24
任期有	9.1	2.1	11.9	18.5	34.4	14.1	9.9	7,672	5.7	0.21	4.1	5.6	6.8	5.5	5.3	5.7	-	-	-0.2	0.4	-	-	-	0.2	25
任期無	7.2	3.4	11.2	22.1	26.8	22.8	6.5	25,092	5.6	0.12	4.0	5.6	7.1	5.6	5.6	5.6	-	-	0.0	0.0	-	-	-	0.0	26

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)～6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、学部局分野別)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q614. (意見の変更理由)研究者は、研究活動の国際化に伴って生じる利益相反・責務相反のリスク要因※に対して、十分な意識を持っていると思いますか。

前回	2023	差	
1	3	5	2 法務部にいろいろお願いする事が多くなった(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
2	3	5	2 学会での啓蒙活動が功を奏している(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
3	4	6	2 事前の審査内容がたいぶ増え,かつ詳細になったと実感するため。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
4	1	3	2 利益相反などの講習会の実施が行われてきたため(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
5	2	4	2 関連する内容のFDが開催されている。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
6	2	4	2 研究インテグリティに関わる取り組みを改善し,組織内で周知徹底を行っている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
7	2	4	2 インテグリティに関する取り組みが強化されている(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
8	1	2	1 最近その手の研修が増えているので,意識は高まっている印象。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
9	4	5	1 リスクマネージメントの指導が行われている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
10	3	4	1 所属機関では,オンライン研修を定期的に行っているため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,女性)
11	2	3	1 少しずつ改善されていると思います。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
12	4	5	1 これは最近強く言われていることから意識はかなり高まっていると思う。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
13	3	4	1 研究インテグリティに関する講習が行われており,一定程度の意識醸成が図られていると思われるため。(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,男性)
14	3	4	1 利益相反マネージメントや研究インテグリティに関わる規則の制定・改訂や意識醸成のための研修等を実施している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
15	2	3	1 報道等もありリスクに対する意識は高まってきているはず(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
16	2	3	1 研究インテグリティ規程を制定し,研修計画の予定のため,今後研究者が意識を持つと予想されるため(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
17	4	5	1 政府の動きもあり,重要なテーマと認識されるに到りつつあるため。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
18	2	3	1 研究インテグリティに係る講習会の開催などを定期的におこなうようになったため。(国研等マネジメント層,その他,男性)
19	3	4	1 安全保障については,意識が更に高まっていると思います。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
20	3	4	1 研究支援体制が充実してきている大学等での教育の成果が徐々に出てきている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
21	3	4	1 改善しているように見えます。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
22	4	5	1 大学や公的研究機関での研修や周知などが,以前よりも行われているように感じています。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,女性)
23	5	5	0 近年,安全保障輸出に対してより厳しく調査や評価がなされていると思う。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,助教、研究員クラス,男性)
24	3	3	0 機関内でのFD研修などがあり,リスク要因に対する認識はあるが,十分な意識を持っているかどうかは分からない。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
25	2	2	0 海外との共同研究で研究資金を得ている研究者は少なく,また外国機関の身分はない研究者がほとんどのため,そのような意識がほとんどないと思う(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,女性)
26	3	3	0 国による利益相反への認識の違いを理解するのは難しい。米国では厳しい(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
27	4	4	0 研修も行われているかと思います(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
28	2	2	0 法的なリスクの認識度は高くないと思う。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
29	4	3	-1 研究者が一般的に十分な意識を持っているとは言えないと判断。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
30	3	2	-1 問題が起きた時に動くのが教授会であるが,専門性のない教授より,専門性のある弁護士などの人材を活用すべきである。(大学現場研究者・自然科学,第1G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
31	2	1	-1 これについては大学は危機感を持つ必要があるとすら感じる。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
32	2	1	-1 倫理の理解が乏しいと感じる事例を知るところとなった機会がいくつかあったため,教科書でも倫理についての内容が欧米のものと比較して薄い。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
33	5	4	-1 啓発活動は行われているが,十分ではないかもしれない(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
34	3	2	-1 私自身も含めて,利益相反のリスクなどに無自覚な研究者が多い。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)

35	3	2	-1	近年の世界情勢の変化により、特に中国との関係の変化により、より意識を上げていかなければいけない状況となっているが、相対的に対応が追いつかない状況となっている。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
36	3	2	-1	ますますリスクは大きくなっていると感じる。特にアカデミアの意識の問題、制度の問題(大企業の代表等、学長等クラス、男性)
37	2	1	-1	上述と同じで、中国問題に対し、ひどく感度が低い。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
38	5	4	-1	全体的に、今年はその感じている。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
39	5	3	-2	ルールが煩雑化しており対応しきれしていない(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
40	3	1	-2	より厳しくなっている中で公的研究機関の認識がどこまで高まっているかが不明(大企業の代表等、学長等クラス、男性)
41	3	1	-2	規制が厳しくなるにつれ、手続きが面倒すぎて無視する傾向にある気がする(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
42	4	1	-3	研究者本人を支援する上で、突然、国際共同研究をしろと強要されました。私の学内での研究の状況や、今までの研究分野は全く無視され、○○号で研究業績が乏しい上司をコレスポンドイングオーサーとし、研究計画・実施を私が担当するよう学部長命令で強要です。研究協力者にはなるが、それ以上は自身の科研等があり難しいと伝えたら、嫌がらせの発生頻度が急上昇いたしました。具体的には、【個人が特定される可能性があるため秘匿】。(大学現場研究者・自然科学、第4G、保健、准教授、主任研究員クラス、女性)
43	6	3	-3	今後国際交流・国際共同研究などがどんどん増加すると思われるが、現状では事例がすくないため、予想されるリスクやそれに対する対応、また事前に注意すべきコンプライアンス・法規などは十分に周知されていないため(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)

Q615. (意見の変更理由)研究活動の国際化に伴って生じる、利益相反・責務相反のリスクに対応するための組織的な取組※は十分に行われていると思いますか。

前回	2023	差	
1	2	4	2 所属機関では研究倫理に関して相談できる,対応を手伝ってもらえる部署があるため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
2	1	3	2 利益相反などの講習会の実施が行われてきたため(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
3	1	3	2 少しずつ改善されていると思います。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
4	2	4	2 関連する内容のFDが開催されている。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
5	2	4	2 チェックを作成し講演会を行い,全学で取り組んで(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
6	5	6	1 やりすぎで不都合が生じている(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
7	3	4	1 研究インテグリティについてのFD等がおこなわれるようになった。(大学現場研究者・自然科学,第1G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
8	1	2	1 取組は積極的に行っていると思う。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
9	4	5	1 システムの整備・周知はなされている。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
10	4	5	1 リスクマネージメントの指導が行われている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
11	4	5	1 啓蒙活動がより強化された気がする。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
12	3	4	1 大学機関では,オンライン研修を定期的に行っているため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,女性)
13	2	3	1 少しずつ周知徹底されてきている(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
14	3	4	1 研究インテグリティ体制を整備した。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
15	3	4	1 研究インテグリティに関わる取り組みを改善し,組織内で周知徹底を行っている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
16	2	3	1 制度をさらにブラッシュアップしつつある。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
17	2	3	1 大学として体制を整備したところで,これから更なる充実が必要と感じている。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
18	2	3	1 今年度より全学的リスクマネジメント体制の整備に着手している。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
19	2	3	1 制度は拡充された(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
20	3	4	1 規則などの整備は進んでいるが,専門人材が少ない。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
21	3	4	1 大学間での格差が大学の規模に相応してかなりついてきているが,大規模大学での体制整備は良くなっている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
22	4	5	1 大学や公的研究機関での研修や周知などが,以前よりも行われているように感じています。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,女性)
23	2	2	0 機関内で特にそのような体制の整備が行われている様には思えない。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
24	4	3	-1 海外に比べると遅れている。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
25	3	2	-1 もっと簡易に専門性のある人材にアクセスできるようになるべきである。あまり守ってもらえないと感じない。(大学現場研究者・自然科学,第1G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
26	2	1	-1 研究者任せで大学全体で面倒見てくれる制度はないです(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
27	5	4	-1 やや過剰になりつつあり事務負担が上がっている。ひたすらに確認や規約を増やすのではなく適切なバランスが必要(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
28	3	2	-1 ルールに対応しきれていない(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
29	4	3	-1 一般的な利益相反・債務相反のリスクは研究倫理研修で行っており,国際的なリスクについても一定の公知を行っている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
30	3	2	-1 現在,規程類を整備中であり,現状で十分に行われていると考えていない。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
31	3	2	-1 何度も書きましたが大学の改革必要(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
32	4	3	-1 大学における国際連携の数が少ないこともあり,リスク管理が弱っているのでは(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
33	3	2	-1 国際化が進む中で組織的対応が遅れている(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
34	5	3	-2 最近になって体制が整備されたせいなのか,例えば部署が設置されていたとしても,機能していない場合があると感じる。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
35	4	1	-3 これについては大学は危機感を持つ必要があるとすら感じる。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)

Q616. 科学技術・イノベーションと社会のパートの質問に関連する内容について、ご意見をご自由にお書きください。

- 1 現在、経済安全保障に関して、文部科学省や各大学の立場が極めて曖昧であり、危険をはらんでいると感じる。具体的には、中国からの留学生を受け入れるに当たっては、母国での国内法に従って、留学生は知り得た情報を全て中国政府に提供する義務をおっている。従って、大学では軍事転用可能な最先端技術に関する情報を、これらの留学生から隔離する様にとの指示であるが、修士や博士課程での研究に最先端技術が関わらないケースは皆無であろう。留学生達に罪は無いが、このような矛盾を抱えた状況では、特定の国、特に中国からの留学生を受け入れる事が躊躇われる。(大学の自然科学研究者、第1G、工学、教授、部局長等クラス、男性)
- 2 国際共同研究 = 一流の成果・イノベーション、という発想はいかがなものか？ 海外の著名人と共同研究をして、一流の雑誌に成果が発表される人がいるが、多くは人の真似ごとで一流の成果を得ているだけで、オリジナリティはほとんど無いように感じる。社会は何を評価するべきか？ をもう少し精査するべきと考える。(大学の自然科学研究者、第1G、工学、教授、部局長等クラス、男性)
- 3 他大学の研究者どうしが連携してより大きな課題に取り組むことは重要であると思うが、若手研究者自身の裁量で連携を組んで研究に取り組める環境が上手く整備されていないように感じる。(大学の自然科学研究者、第1G、工学、助教、研究員クラス、男性)
- 4 講義やイベントの動画配信等を通じて広くアウトリーチ活動が可能となったと思います。社会のニーズをより取り入れやすい枠組みと、国際的な活動の際のリスクマネジメントも含めた支援やスキームができると良いと思います。(大学の自然科学研究者、第1G、工学、助教、研究員クラス、女性)
- 5 重要性は理解していますが、ポジションや研究費の獲得に直接つながらない活動に、時間をさく余裕はないと思います。(大学の自然科学研究者、第1G、保健、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 6 研究コミュニティを運営する研究者が忙しくて、十分な取り組みができないと思う。(大学の自然科学研究者、第1G、保健、助教、研究員クラス、男性)
- 7 質問が誘導的すぎる。例えば、「あなたの研究分野における日本の全般的な状況を踏まえ、研究コミュニティ(学会等)は、地方公共団体、NPO/NGO、市民等の多様な主体と共創し研究活動を行うことに、十分に取り組んでいると思いますか。」というのは、「多様な主体と共創し研究活動を行うこと」が善であるということを前提とした質問になっている。研究が市民と共に進めるべきものであるとは限らない。研究の阻害要因になる場合もありうる。(大学の自然科学研究者、第2G、理学、教授、部局長等クラス、男性)
- 8 海外で共同研究する時、日本のお金で買い物するのが不便です。海外の共同研究者に予算をつけるシステムを作ってほしいです。(大学の自然科学研究者、第2G、理学、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 9 異分野連係や国際連係は、もともと盛んに行っていることを、継続しても評価されない。新しく行わなければ評価されないので、現状では、うまく行っていることを廃止する必要がある。(大学の自然科学研究者、第2G、理学、助教、研究員クラス、男性)
- 10 インフレや円安の影響もあり、外国への出張は年々難しくなっていると思われ、その分国際共同研究の機会も減るものと考えられる。(大学の自然科学研究者、第2G、工学、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 11 大学に何を求めているのか、はっきりさせて欲しい。あれもこれも、というのは無理だ。大学はやはりしがらみのない研究と学生の教育に集中できる環境があって欲しいと個人的には思う。(大学の自然科学研究者、第2G、農学、教授、部局長等クラス、男性)
- 12 不健全あるいは効率の悪い予算配分により、もはや日本の研究力は低下する一方だと確信している。挽回は不可能だと思う。(大学の自然科学研究者、第2G、保健、教授、部局長等クラス、男性)
- 13 私自身が国際連携の希望があるものの、家庭の事情(3児の育児)で長期出張しにくい状況にあり、海外出張は絶望的な状況にある。コロナ禍以降、海外の研究者とも、長らく話せていない。このような状況下では、国内での国際会議の機会が貴重である。若手・中堅が開催する国際会議への助成があると、ありがたい。(大学の自然科学研究者、第3G、工学、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 14 利益相反については、最近、研修などが頻繁にされており、急激にリスク対応に対する意識が向上していると感じる。(大学の自然科学研究者、第3G、農学、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 15 学会にも経営的戦略の波が押し寄せる過渡期であり、社会へ貢献するという長期的な視野をまだ確立できていない。(大学の自然科学研究者、第3G、農学、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 16 日本の研究資金の利用ルール制度は、年度ごとの使用で硬直的であり、海外共同研究の目処が立てにくい場合がある(大学の自然科学研究者、第3G、保健、教授、部局長等クラス、男性)
- 17 本学の問題点は、国際的な研究に関する担当部局がしっかりしていないことです。これは担当職員が日本人材の流動性を確保するために、英語に堪能であったり国際感覚を持つ専門職員が雇われていないあるいは年限付き(職務権限が限られる)のためです(大学の自然科学研究者、第3G、保健、教授、部局長等クラス、女性)

- 18 総じての話であるが、日本の現在の学術研究が遅れをとってしまった最大の原因は、さまざまな規制の存在であると思う。例えばかつては世界で最も動物実験がやりやすい国であったのに、今は全くそうでない。上述の各項目の質問を逆に捕らえれば、研究コミュニティの関与を十分に受け入れているかということでもあろう。なにか研究を進めようと思うとさまざまな制度的な壁にもあたるし、金銭的な問題も基本的にもずから解決していかなければならない。その様な視点から見て、資金と人的資源の集中を一気にすすめることができている中国には今後勝てないと思う。日本も持っている個々の能力と器用さを生かした新しい研究のやり方、やらせ方を模索していかなければならない段階だと感じる。(大学の自然科学研究者,第3G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 19 科学者に過剰にアウトリーチを強制するのは、研究時間を奪うことになり本末転倒である。また、アウトリーチとはいえ業務なのだからそれ相応の対価が支払われねばならないだろう。無給ゆえに虚しさがつる。(大学の自然科学研究者,第4G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 20 これまでも他大学の異分野研究者と連携し、競争的資金を獲得して、共同研究を行ってきた経験から、以下のように感じています。まず、「分野横断型の研究」促進のために、大学内や学部内での研究組織の改変(改組や学部横断型の研究組織立ち上げ、文理融合系の研究助成)は、あまり意味が無く、むしろ組織改変となると、それに伴う労力が奪われ、一層、共同研究どころではなくなる。最大の理由は、同じ分野の研究者でも、得意とする専門は細かく分かれており、外部資金(研究費)を獲得しようと思えば、連携相手は学外に求める(求めないと成果がえられない)ことが多いためである。学内での連携を実現させようとする自体に、無理を感じる。特に、小さな大学であれば、中途半端な共同研究しかできず、研究費の獲得にもつながりにくいし、何より研究成果も上がりにくい。共同研究は、「所属組織が同じ」だから実現するものではなく、研究者間が「研究の必要性」や「研究費の獲得」をモチベーションとして行うものである。そのため、①研究者間のコーディネーションができる人材または組織(KAKENシステムやリサーチマップのおかげで、自分で調べられるため、各大学に研究者間のコーディネーターは不要。どうしても電話などで、コーディネートを相談・依頼したいのならば、この組織、という全国で1組織でも十分と思う)と、②競争的研究費の重点的な拡充があれば、十分に、数は増え、実現可能と思う。切実なお願いですが、組織内(学部や大学内)での組織改変を伴う共同研究の促進は、時間が奪われるだけで大変迷惑なので、止めて頂けたらと願います。(大学の自然科学研究者,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 21 昨今の円安かつ物価上昇の中でも研究費の設定額が変わらないため、国際連携の強化は経済的に大変厳しい状況である。(大学の自然科学研究者,第4G,農学,助教、研究員クラス,男性)
- 22 日本の大学教員は雑用が多すぎて研究に割く時間が少ない。文科省が細かいことを決めすぎるのでその対応が大変なのでは?(大学の自然科学研究者,第4G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
- 23 学会や政府(文部科学省)が主体となった研究倫理や利益相反などについてのweb講習や認定制度が以前より充実してきているため、若手研究者に対する十分な啓蒙活動がおこなわれており、その意識も高いと感じる。一方、研究倫理や利益相反、ハラスメントについての意識が低いのは、これまでにこういった教育を受けておらず、最近のweb講習や認定制度を形式的にしか受講しない50代以上の研究者が多いように感じる。このような状況からも、その相談窓口を所属機関内ではなく、客観的評価が可能な第三者機関として設置するべきではないかと感じる。(大学の自然科学研究者,第4G,保健,助教、研究員クラス,男性)
- 24 輸出に関する注意など、国際共同研究を進める際に非常に重要になる情報を理解している研究者が極めて少ないことは問題であると思う。実際、注意喚起のために大学や学会から講演を依頼される機会が非常に増えつつある。(国研等の自然科学研究者,教授、部局長等クラス,男性)
- 25 イノベーションを起こすためには異分野融合の取り組みが重要との認識である。今後そのような方向に向かう雰囲気がある。その意味で国際化は大事であるが、危惧していることが多い。(国研等の自然科学研究者,教授、部局長等クラス,男性)
- 26 かつて日本は多くのイノベーションを生み出してきた。元々は大学の基礎研究で生まれたものでも、その実用化は企業主体で行ってきたからである。米国のIT企業や〇〇〇〇【海外企業】などを見ても、この法則は今でも変わらない。日本企業にその体力がなくなったことが日本でイノベーションが生まれなくなった原因であり、それを大学や国立研究所のせいにするのは間違っている。むしろ大学や国立研究所に多くを求めた結果、基礎研究によるイノベーションの種が生まれなくなっていることが問題。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 27 社会的意義を研究者が考えることは重要であるが、一方で、これに捉われることによって失われる学術的価値があることも考慮した研究の多様性への取り組みが重要であるとも考える。したがって、分野によっては、社会的意義を排除した研究が進められるような取り組みもあるべきだと感じている。これは国の手助けなしでは困難であろう。社会的意義のないと思っていたものが大きなイノベーションに繋がったと言は、多くのノーベル賞受賞者から聞かれるものになっていると思う。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 28 科学技術と社会との関係について、科学リテラシーの有無が非常に大事に思っている。科学リテラシーのない市民から先端科学技術に対して「なんとなく怖い」といった感情的な反応をされることがあるが、これは科学技術の正当な評価とはいえない。また、極端な信条に基づいてある種の科学分野や動物実験に反対する人たちもいる。科学技術の社会との共栄は望ましいが、科学者が社会に先端技術を発信することについて、どのようにするのがいいのか自分自身模索している。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 29 国際共同研究において、どの部分を連携して、どの部分を秘匿するか、という点を検討することが難しいと感じる。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 30 インテグリティを過度に気にしすぎる取り組みによって、研究のディスカッションそのものがやりにくくなっている。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 31 総合知という言葉は聞かれ始めましたが、実践しているところやまたその機会もまだ少ないと感じます。国際共同研究については、昨今輸出管理の厳格化に伴い、非常にやりにくくなっていると思います。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)

- (第1回・第2回定点調査での記述内容とほとんど同じですが、あえて書きます) (601)我々研究者は、イノベーションを創出するために研究に取り組んでいるわけではない、イノベーションを創出しているかで見せかける活動に競争資金が付きやすい現状には、かなり強い違和感がある。例えば、SIPでイノベーションを創出できたら大間違い、既に助走がついている研究開発を寄せ集めて、社会実装を実現するのはただの”アレンジメント”に過ぎない。政府が「我が国の科学技術を振興し、(将来の)イノベーションを創出した」と真に願うのなら、何の役に立つかわからない基礎研究にも惜しみなく予算を配分すべき。研究費のみならず、基礎研究を担う人材確保のための予算配分が喫緊の課題と強く思う。現場ではここ数年、アカボスが減るばかりで研究者1人あたりの雑用の負担が増え、研究どころではない。「科学知は人類共有の財産である」「学術研究への投資は人類の未来への投資である」「科学研究競争力・科学知は国益である」という理解を国民に広め、基礎研究とそれを担う研究人材の重要性が我が国の国民にあまねく理解されるような教育が、今こそ必要なのではないか。(国研等の自然科学研究者、助教、研究員クラス、男性)
- 32 総合知に関しては理系から見た場合に、異分野融合と謳っている案件は散見されるが、異分野融合による新しい知を創出している例はあまり見ない。これは科研費・NEDOを通して見受けられる課題である。(国研等の自然科学研究者、助教、研究員クラス、男性)
- 33 海外と研究する際に、どの法律や規則が適用/不適用かの判断が役所の担当者に依存する場合があります、統一化されていない印象がある。(国研等の自然科学研究者、助教、研究員クラス、女性)
- 34 国際連携については、近年の社会情勢や安全保障から、残念ながら連携が以前より疎になる方向に向かっていると感じる。また、研究資金の利用ルールについて、入札のルールなど研究費使用に複雑・煩雑な決まりが多く、国際共同研究を進める障壁の一つに思う。(国研等の自然科学研究者、助教、研究員クラス、女性)
- 35 一見取組んでいるように見えるが、結局は文科省の意向にそって表向きに取組んでいるにすぎない。大学の本質は何か、大学の個性はどこにあるのか、をもう一度考え、原点にもどるべきである。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 36 環境問題への取り組みなどは分野を超えた活動が重要であることは自明ですが、個別研究のレベルになるとちょっとした専門の違いや他分野であるが類似課題の研究者を知らないなど、基本的なところで改善の余地があると思います。類似分野で業界を横通しする研究者の交流など。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 37 国際連携:円安、海外の給与体系、航空運賃の大幅上昇等を社会情勢の変化を全く反映していない10数年前から変化していない研究資金配分と古いルールが横行している。日本の置かれている状況は日夜変化している。フレキシブルな制度変更を可能とする新たなシステムの策定が必要となっているように感じる。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 38 国際研究を行う時に使える日本の研究資金が少ない。旅費としてしか使えなかったり、海外に日本の研究費を落とせない。知識循環は共に同じ研究費を獲得し、本気で両者が課題に臨んだ時に大きな効果を出すと思う。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 39 年がら年中イノベーションと言われるが、「イノベーション」の判定基準がいまだにわからない。産学連携でそこそ目立った研究成果(「魔の川」を超えたあたり)であればイノベーションを自認して良いのか、それとも「死の谷」「ダーウインの海」を超えないと「イノベーション」とは言わないのか、あるいは何かのパラメーターで閾値を超えない限り「イノベーション」とは呼ばないのか、ずっとモヤモヤしている。政府が「イノベーションの芽」を選定して、複数のパラメーターで「イノベーション度」を測ることはできるのか。誠実な研究者であるほど、自分の研究成果を自分から「イノベーション」とは呼ばないと思う。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 40 コロナを経て、学会運営が低下している。特に企業の会員数が減少しているが、大学人の会員も減少している(退官教員に対して若手研究者の数が少ない)。企業の会員が減少することで産学連携の機会も損失しており、企業に対する働きかけが必要と考える。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 41 言わんとすることはわかるが、アウトリーチなど研究者の負担を増やさないで欲しい。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 42 海外で独立しているPIがクロスアポイントで日本のポジションを獲得して、その人が日本の研究資金を獲得した場合、国際化に伴う利益相反に対応できているのかの精査がなされているのでしょうか？海外にしながら、日本の大型グラントを次々と獲得している人を見てみると、もっと日本の研究者に分配してほしいと思う。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 43 頭脳循環を促すためには、国境を超えた枠組みで使える資金(人件費、研究費等)を増やすべきと考える(重点プログラム研究者、助教、研究員クラス、男性)
- 44 科学技術の発展やイノベーションのためには、科学技術の促進とリスク管理の両立が重要となるが、科学技術のリスク管理については科学的に立証されていないが顕在化すると取り返しがつかないものも多く、どこまでの範囲のリスクをどのように管理するのかについて、結局は政治的・法政策的な判断に頼らざるをえない。そのさい、対象となる科学技術を私たちがいかに受容し利用するかなど、これまで人文・社会科学が対象としてきた人間や社会の価値の問題に踏み込むことになるため、今後はより文理融合の視点からの議論が必要となると考える。(人文・社会科学系研究者、教授、部局長等クラス、女性)
- 45 自分としては、国際共同研究や文理を超えた共同研究を進めたいのはやまやまでであるが、そのために行わないとならない事務的負担や(事後の公表も含め)手続きの煩雑さを考えると、迂闊に手を出すことはできず残念である。日々の業務も含め、全体的に忙しい日常をまず改善する必要があるだろう。加えて、現在自分が研究対象としている領域の学会の考え方も非常に古く、文理を超えた研究など行おうものなら大きな批判の対象となることを覚悟しないとならない。正直、新しいアイデアを出すことすら難しく、イノベーションに貢献できる体制があるとは全く思わない。(人文・社会科学系研究者、教授、部局長等クラス、女性)
- 46 特にベンチャー支援が、環境面・財政面共に薄い(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 47

- 48 新たにオープンイノベーションセンターを設置し、産学連携強化を進めている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 49 国際化の進展とともに、特に研究インテグリティの分野における個々の大学における構成員の意識啓発が必要になると思われる。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 50 総合知、オープン/クローズドイノベーションなど、国際的に展開していくためには、研究推進機構のような組織が必須であるが、一方で技術の安全保障や研究インテグリティなど制御する必要もあり、様々な問題がある。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 51 安全保障輸出管理に関わるこれまでの海外大学等との継続的な連携や、現下の防衛装備庁関係の研究応募について、組織としての対応に苦慮している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 52 国際化は設置者からも強い関心を持たれ大学としても力を入れているものの、言葉の問題や学生の行動様式の変化(以前より留学等に消極的)もあり、すぐに効果をあげることは難しい。一方のスタートアップ、産学公連携に関しては今後否応なく広がっていくかざるを得ないと感じている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 53 外為法、経済安全保障推進法に関して、本学の輸出管理ネットワークないし安全保障貿易管理ネットワークの整備が遅れており、その対応を急いでいる。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 54 科学技術が進歩し、横断的な解析が求められる時代となった。また社会と連携する意味でも、多様な人材と研究を進めなければならぬが、日本の大学は自前主義を重視しているように思う。そのため人材の流動性が極めて乏しい。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 55 社会的課題に取り組むための異分野の連携は重要であるものの、枠組みの変更に伴う労力とそのための支援態勢がマッチしていないため、個人レベルでの域を出ないのが現状であり、分野間連携に特化した支援策が必要である。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 56 学会等の研究者のコミュニティは、研究者の利益を優先することを基本とするものであるが、その公益性については、意識が十分とは言えない。分野によっては、市民向けの事業を展開しているものの、社会に対してもっと働きかけを行うことで、公的資金によって研究費が賄われていることに対する国民の理解の向上、さらには公的研究費の増加につながると思われる。また、日本学術会議については、国民の利益のみならず、研究者の利益にも貢献しているとは言い難い状況であると思われる。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
- 57 「日本の一般的な状況を踏まえ」という設問項目については、ポジティブな回答をしにくい。当研究所では「研究インテグリティ」を意識することは強調している。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 58 知財、国際化などに関する研究者側の知識やリスク認識は高くなっているが、サポート体制が弱い。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 59 核融合分野に関しては国のイノベーション戦略「フュージョンエネルギー・イノベーション戦略」が示され、核融合技術の社会実装に向けた取り組みが強化されつつある。そのなかで、国際協力の在り方も新たなフェーズに入る準備が急務である。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 60 社会との関係について、基礎研究から社会実装への研究展開のなかで、実証研究の機会は随分増えてきたと感じるが、実用化には経験の蓄積・共有や制度面での対応などが不足していると感じる。国際連携に関して、各国、地域での情報保護制度などの変化が大きく、国際共同研究を行う場合に法制度対応のコストが大きくなっている。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 61 文理融合の研究を推進しているが、まだ数も理解も乏しく、ましてや企業の理解が足りないので就職が難しい。企業からの寄付や委託研究も少ないので、産業界の意識変革が不可欠。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
- 62 世界における日本のプレゼンスの低下は由々しき問題である。将来、国際連携活動において日本が加わらなくても問題ないという状況にならないか危惧している。(国研等マネジメント層,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 63 ○○○○【海外企業】が日本に半導体工場を建設するなど、外部要因で研究活動の国際化を進めざるを得なくなっている。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
- 64 オランダの大学と共同研究しています。明確に、国としてどういう領域を重点領域にするか宣言し、研究費の拠出もその方針に従ってやっています。メリハリが強い。日本は、まだ総花的なのかもしれません。言語の壁があり、競争性の高い最先端の研究を日本で続けるのは簡単ではない。そういう領域に進んだ人は海外に出るという構造になっていると思います。企業として選ぶ場合は、動けるなら海外、国内に限らず研究能力が高く、知財条件で企業の希望に沿った機関を選びます。国内研究機関とやる場合のメリットは税制面ではなく、日本語が通じることです。つまり、企業側のスタッフが日本語でできるということのメリットに限られてしまうのでは。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
- 65 インテグリティに関しては、前項で書いた大学改革必要では？と感じる(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
- 66 自身の浅学もあるが、国際化に伴うリテラシーの拡充は十分なのか、不明。(大企業の代表等,教授、部局長等クラス,男性)
- 67 研究テーマはより細分化し、高度になっているため、やることは山のように有ると思いますが、一つ一つのセキュリティが実際担保出来ているのかよくわかりません。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)

- 68 社会との関係については、若手の研究者ほど意識が高い傾向がみられる。ただ、日本の教育では高校の段階で「理系」「文系」という枠組みを設け、自身を縛ってしまう傾向があり、それがひいては研究者のバックグラウンドに大きな影響を与えているとみられる。いわゆる理系といわゆる文系の分野との相互交流が少ない、あるいは推奨されていない原因にはこういった大学以前の問題が大きいと思われる。とすれば、研究改革を大学以上に留めるのではなく、広く中学・高校からの教育制度改革にまで持ち込み、来たるべき世代が理系・文系といった枠組みを意識せずに自らが欲する研究を推し進められるようにしていくことが重要だと考えられる。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 69 海外との連携を進めるための日本からの情報発信が少なく、海外から、もっと情報発信を「英語で」出してほしいと言われている(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 70 繰り返しになるが、研究者が、研究者として生きればよいのではなく、社会の中にある一研究者であり、そのコミュニティを維持するためには、社会に対し研究を通じて貢献しなくてはいけない、という事を強く認識すべき。興味がある事に対し深堀り研究を進める事は決して否定しないが、それをどのような形で社会に活かし、費用対効果の高い成果物にして行くかを考え実行する義務が研究者にはあると思う。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 71 スタートアップについては情報は徐々にまわっていると思います。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 72 優秀かつ有意義な研究に対する目利きが官公庁側でできていないのではないかと感じるケースを見ることがある。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 73 イノベーションを推進するには国のサポート以外にも社会環境の整備が必要。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,准教授,主任研究員クラス,男性)
- 74 研究機関や研究者は、社会への研究成果の実装について様々な努力をするようになっているが、マスコミやSNSなどで誤った情報が拡散され、研究者たちの努力が社会的に認められない状況に対する対策は考えるべきである。マスコミは博士号取得者の採用をもっと進めるべきであり、ノーベル賞やスポーツだけを持ち上げるのではなく、日本国際賞や京都賞、様々な科学オリンピックの成果なども大きく報道すべきである。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
- 75 大学や公的研究機関の社会や、国際的な視点での競合や協調に関しては、研究分野によってその進捗が異なっているように思われるが、内向き傾向が少しずつ増えて来ているように感じる。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
- 76 大学ではリスクをとって社会経済的イノベーションの方向に動くことができていない。従来型の研究スタイルに安住している。新しい資本主義経済を構築するにあたって、これまでの考え方にとらわれた連携・協働ではなく、新たなそして真の文理融合的発想の研究が必要。そうしないと、シュンペーターのようなイノベーションは大学から出てこない。この点、日本学術会議はなんの役割も果たしていない。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
- 77 知財戦略に加えて、標準化の重要性を再認識し、標準化をビジネスツールとして活用する事の出来る人材育成に取りかかっていることは望ましい変化である。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
- 78 国内のみならず、国際的な連携が促進され、大学での成果物が社会に還元していけるような仕組みについて、デジタル社会における海外の大学における実施状況を調査して、日本の大学も、取り入れていけるガイドライン等のようなものを作成し、広く周知いただくことがよいのではないかと。今後、大学等の研究成果が、より社会で活用されて社会課題を解決していくことを期待する。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
- 79 博士号取得後の海外留学が減少の一途を辿っていることは、国際連携において他国(例えば中国、韓国など)に大きく劣っている。また、留学後に海外に残るのは女性の方が多く男性が少ないことは、さらに優秀な女性が日本で活躍できていないジェンダーギャップに繋がっている。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
- 80 創業、産業界との連携はさらに深めていく必要がある。教授が学長になるという今の道筋ではこれは進まない。大学経営するという学問がないからである。従って大学経営のプロがいないという事が最大の日本のリスクである。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
- 81 イノベーションを起こすにも、国際活動を行うにも、時間的、経済的な余裕が必要であるが、国立大学は現在人員削減と経費の上昇で大変厳しい状況にある。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
- 82 スーパーシティ、スマートシティ等実証実験の試みを見聞きするが、地方自治体側の体制が十分であるのかが不明です。大学や企業側に比較すると、地方自治体の人材や公的な支援が不足しているのではと推察される。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
- 83 日本は研究インテグリティのみならず国際条約や連携についての情報が研究の現場に届きにくい構造になっている。(そもそもメディアが国内ニュースを多く扱い、欧米のように国際情勢を扱っていない。)結果として研究者が世界の情勢に疎い、そもそも知らないという状況が生じている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
- 84 科学と社会の関係性構築は極めて重要であるにもかかわらず、そのことに対する認識の乏しい研究者が(自然科学にも人文・社会科学にも)かなり多い。一定の会議体が設けられても、各専門家が自分の専門の知見を述べるのみで協働関係ができない事例が多い。科学技術社会論のような、科学と社会の関係性の分析・適正化を目指す分野への関心も低い。表面的・画一的な研究倫理教育や利益相反管理ではなく、学術のあり方全般に関して両者の協働関係を促進する仕組みが必要である。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
- 85 実証の場などは、「設計」がとても重要ですが、「設計」に多くのリソースを配分できていないことが問題だと思っています。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
- 86 予期せぬ事態や電気代高騰などに対応するため、諸外国と同様、一定程度の予備費を研究助成の項目として認めることを検討することが、国際共同研究を推進するにあたり必要ではないか。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)

- 107 イノベーションを意識して最適で効率的な研究を行う研究者、グループが表出しており、科学技術の成果を社会進歩につなげようとする意識の高い研究者も増えてきている。一方で、所属する大学による環境の差が著しくなっており、特に地方国立大学で、有望な研究者を毀損してしまう可能性も高くなってきている。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 108 全般的に言って、当事者の意識の醸成、社会的評価、当事者のインセンティブの向上が総合的に必要となる。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 109 米国の大学との共同研究の経験から、利益相反や共同研究費の使用ルールがアメリカを模倣したものであることがよく分かった。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 110 学会等は社会への発信について、より積極的になっているが、各研究者レベルでは、十分な時間的余裕が与えられていないと感じる。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 111 国際社会における日本の立場や果たすべき役割、特に発展途上国の発展に対する日本の役割は極めて重要であり、平和的なアプローチでの科学技術やイノベーションを通じた国際貢献を強化していくべきだと思う。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 112 国際性の欠如は年々増しているのは憂慮される。研究だけではない問題である(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 113 昨今中国への技術流失を懸念する施策が行われている。冷静に考えれば、米中の力関係とは異なり、今や中国のほうが日本の先に行っている分野が多い。したがって交流をたって損をするのは日本の方なのではないだろうか。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 114 近年、大学では研究倫理研修が義務化され、かなり広く意識が高くなってきたと思われるが、国際化との関係では分からない、というのが正直な答である。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 115 イノベーションは起こそうとして起こるものではない。ただ、起こる可能性を高めるには、研究について十分な時間を割けることが必要である。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 116 研究者個人は、社会的な課題解決や社会的貢献を考慮して研究を行うケースが多くなっている。ただし、研究コミュニティ(学会等)は、その学術分野の発展と研究者へのサービス提供が主たる生業なので、社会貢献は二次となっている。学会運営も、会員減少と共に厳しいものとなっている。学会の様々な活動はボランティアベースなので、多忙化の中で社会貢献の業務まで行う余裕はあまりなくなっている。異分野との協働は加速しているが、まだ十分とは言えない。イノベーション促進の環境整備はまだ不十分である。実証実験の場合は増えつつあるが、実証実験で留まってしまい、社会実装までつながらないケースが多い。協議会などが増え、オープンイノベーション拠点の整備や標準化などが若干進みだしている印象があるが、まだまだ十分とは言えない。ベンチャーの起業・経営への支援環境はやや上向いているが、まだ不十分である。国際連携プログラムも徐々に増えつつあるが、これについてもまだまだ十分とは言えない。安全保障輸出管理の重要性が増している。利益相反・責務相反のリスク要因に対する意識は高まりつつあると思われるが、大学や研究者によってかなり差があると思われる。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 117 国際化、グローバル化は、コロナ禍の経験を通じて、また現在の円安状況を踏まえて、次のステージに移行しつつあるように思われるが、それに日本の研究環境が対応しているかという点、心もとない。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、女性)
- 118 社会へ還元という観点から、社会実装、実証実験、社会への展開などの言葉が様々な場面で見受けられるが、その後の継続性、あるいは、中断への決定などが今後の課題となると思われる。また、イノベーションシステムとは、何をイノベーションするのか、そのための知見を得ることとイノベーションを実現するための労力、その上でイノベーションが実現できなかったことまでも含めての成果の受容と言う観点で、日本の社会がやや求めるものに厳しすぎるくらいがあるようにも思われる。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、女性)
- 119 研究インテグリティに関しては、大学スタッフの充実も重要と思う。一方で、輸出入管理の強化などは、自由な発想にもとづく柔軟な研究活動を進める方向とは相反するので、なんとかしてほしい(これにより研究時間が削られるのはおかしいと思う)。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 120 例えば何か科学技術・イノベーションについての国民の理解が危うくなる事態が生じた際、科学的な知見がもう少し多く発信されるようにできないか。コロナの時にはかなり適切に行われたと思うが、最近の例では、マイナンバーの紐付け誤り事案が生じた際、マスメディアやコメントーター等で不正確なコメントが発信されていた。その時、研究者からの正確な情報発信はあまり無かったように思う。その結果、マイナンバーカードを返納するといった全く意味の無い行動を採る国民が現れるなど、デジタル化に対する理解が浸透していないことが明らかになった。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 121 利益相反・責務相反のリスクへの認識や対応が遅れていると感じる。(俯瞰的な視点を持つ者、助教、研究員クラス、男性)
- 122 全般に取り組みは遅れている状況に変化はない。(俯瞰的な視点を持つ者、助教、研究員クラス、男性)
- 123 国際連携はもう手遅れかもしれないと思うくらいに遅れてきた。もっと自由闊達に取り組むことができるような制度設計と自由な環境を提供しないと、若手研究者のマインドも昔に比べ随分内向きになっている懸念がある。(俯瞰的な視点を持つ者、その他、男性)
- 124 研究コミュニティと社会の関りは極めて重要であるが、研究課題の設定から成果に至るまでの各プロセスで、社会に理解してもらい取り組みが必要。特に、総合知に関しては、典型的な事例すら想起できない。(俯瞰的な視点を持つ者、その他、男性)